

Infomart Corporation

—
**Financial
Results**

2025年12月期
第3四半期決算

東証プライム市場（2492）

2025.10.31

INDEX

I . 2025年12月期 第3 四半期決算	P03
II . 2025年12月期 連結業績予想の修正	P14
III . セグメント別の状況	P20
IV . 事業ビジョン及び中期経営方針	P33
V . 株主還元について	P38
Appendix	P40
・会社概要	P41
・サービス別 料金体系	P45

I . 2025年12月期 第3 四半期決算

売上増 と 売上原価(データセンター費用)の低減により利益率が改善

(百万円)

※FY2025通期計画：2025年2月14日公表 連結業績数値

	FY2024 3 Q累計実績	FY2025 3 Q累計実績	前年同期比	FY2025 通期計画	FY2025 計画進捗率
売上高	11,244	13,803	+22.8%	19,491	70.8%
売上原価	4,736	3,710	-21.6%	5,913	62.7%
売上総利益	6,508	10,092	+55.1%	13,578	74.3%
(売上高売上総利益率)	57.9%	73.1%	+15.2pt	69.7%	-
販売費及び一般管理費	5,836	7,684	+31.7%	11,278	68.1%
営業利益	671	2,407	+258.6%	2,300	104.7%
(売上高営業利益率)	6.0%	17.4%	+11.5pt	11.8%	-
経常利益	661	2,396	+262.3%	2,283	104.9%
法人税等	181	881	+385.3%	948	92.9%
親会社株主に帰属する四半期純利益	533	1,501	+181.5%	1,356	110.7%

2025年12月期 第3四半期詳細

※FY2025通期計画：2025年2月14日公表 連結業績数値

(単位：百万円 / %)

	FY2025 1Q		FY2025 2Q		FY2025 3Q		FY2025 3Q累計		
	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	実績	前年同期比	通期計画進捗率
【売上高】	4,304	22.3%	4,696	27.1%	4,802	19.1%	13,803	22.8%	70.8%
BtoB-PF FOOD	2,803	29.5%	2,945	29.7%	3,022	15.8%	8,771	24.5%	72.8%
BtoB-PF ES	1,501	10.8%	1,750	23.1%	1,779	25.3%	5,031	19.9%	67.7%
【売上原価】	1,179	-25.2%	1,257	-23.1%	1,273	-16.4%	3,710	-21.6%	62.7%
BtoB-PF FOOD	619	-34.7%	635	-34.1%	649	-27.2%	1,904	-32.1%	68.2%
BtoB-PF ES	560	-11.0%	622	-7.2%	623	-1.2%	1,806	-6.5%	57.9%
【売上総利益】	3,125	61.0%	3,438	67.0%	3,529	40.7%	10,092	55.1%	74.3%
BtoB-PF FOOD	2,183	79.6%	2,310	76.8%	2,373	38.1%	6,866	61.9%	74.2%
BtoB-PF ES	941	29.8%	1,127	50.1%	1,156	46.4%	3,225	42.3%	74.7%
【販管費】	2,544	48.7%	2,597	31.3%	2,543	18.5%	7,684	31.7%	68.1%
BtoB-PF FOOD	1,557	69.4%	1,546	43.0%	1,545	30.1%	4,649	45.8%	66.7%
BtoB-PF ES	986	24.6%	1,051	17.1%	997	4.0%	3,035	14.6%	70.4%
【営業利益】	580	152.6%	840	948.0%	986	172.9%	2,407	258.6%	104.7%
BtoB-PF FOOD	625	111.3%	763	238.5%	827	56.1%	2,217	110.7%	96.7%
BtoB-PF ES	-45	-	76	-	158	-	189	-	-
【経常利益】	578	153.9%	834	976.2%	982	176.1%	2,396	262.3%	104.9%
【親会社株主に帰属する 四半期純利益】	305	50.9%	542	1700.4%	652	117.1%	1,501	181.5%	110.7%

売上高売上総利益率	72.6%	73.2%	73.5%	73.1%
BtoB-PF FOOD	77.9%	78.4%	78.5%	78.3%
BtoB-PF ES	62.7%	64.4%	65.0%	64.1%
売上高営業利益率	13.5%	17.9%	20.5%	17.4%
BtoB-PF FOOD	22.3%	25.9%	27.4%	25.3%
BtoB-PF ES	-	4.4%	8.9%	3.8%
売上高経常利益率	13.4%	17.8%	20.5%	17.4%

売上高

BtoB-PF FOOD事業

「BtoBプラットフォーム 受発注」：外食チェーン及びホテル旅館業態等の新規利用の増加に加え、昨年8月からの料金改定の実施により売上高が増加しました。

「BtoBプラットフォーム 受発注ライト」&「TANOMU」：食品卸企業と外食個店間のデジタル化ニーズの高まりにより新規利用が増加し、売上高が増加しました。

BtoB-PF ES事業

「BtoBプラットフォーム 請求書」：インボイス制度開始後も大手企業を中心とした新規利用の増加に加え、既存の取引先の多い大手企業とそのグループ企業の利用も堅調に進み、売上高が増加しました。

「BtoBプラットフォーム TRADE」：見積から請求までのデジタル化ニーズの高まりにより、新規利用が増加し、売上高が増加しました。

売上原価

昨年9月のサーバーのクラウド移行により、データセンター費が大幅に減少しました。

販管費

事業拡大に必要な営業及び営業サポート人員の補強により人件費が増加しました。
また、株式会社タノムの株式取得によりのれん償却費が増加しました。

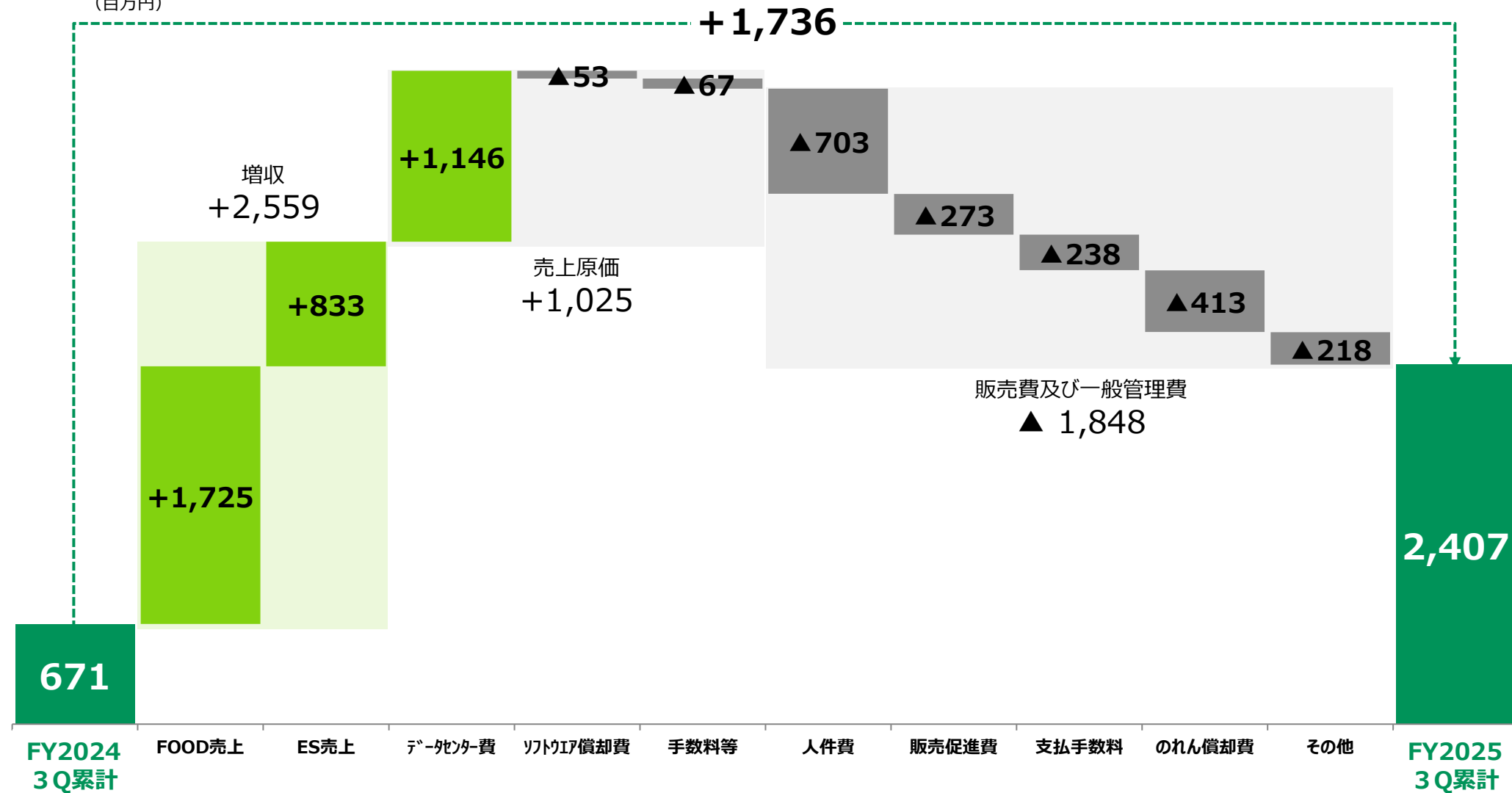
営業利益

FOOD事業の営業利益拡大に加え、ES事業も2Qより黒字転換しました。

営業利益の増減要因

前年同期比

(百万円)



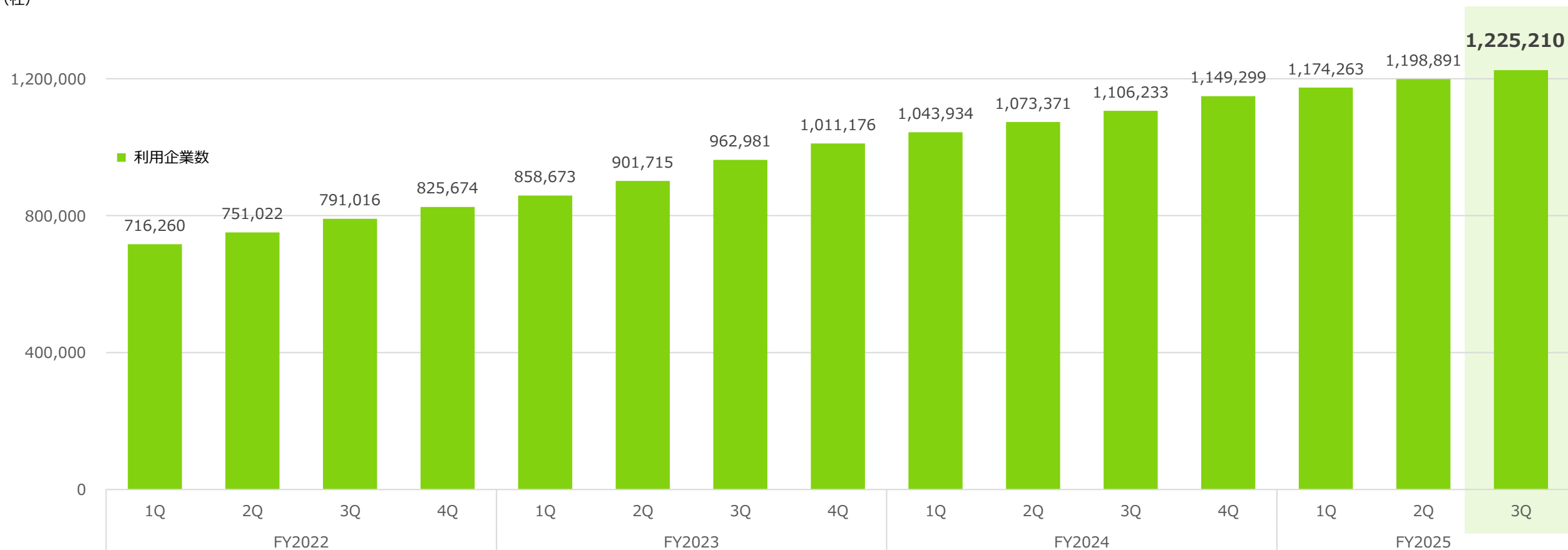


利用企業数推移

顧客基盤となる利用企業数は**122**万社（国内企業の約33%※）に増加

※総務省令和5年6月公表日本企業数：368万社（令和3年6月1日現在）

（社）



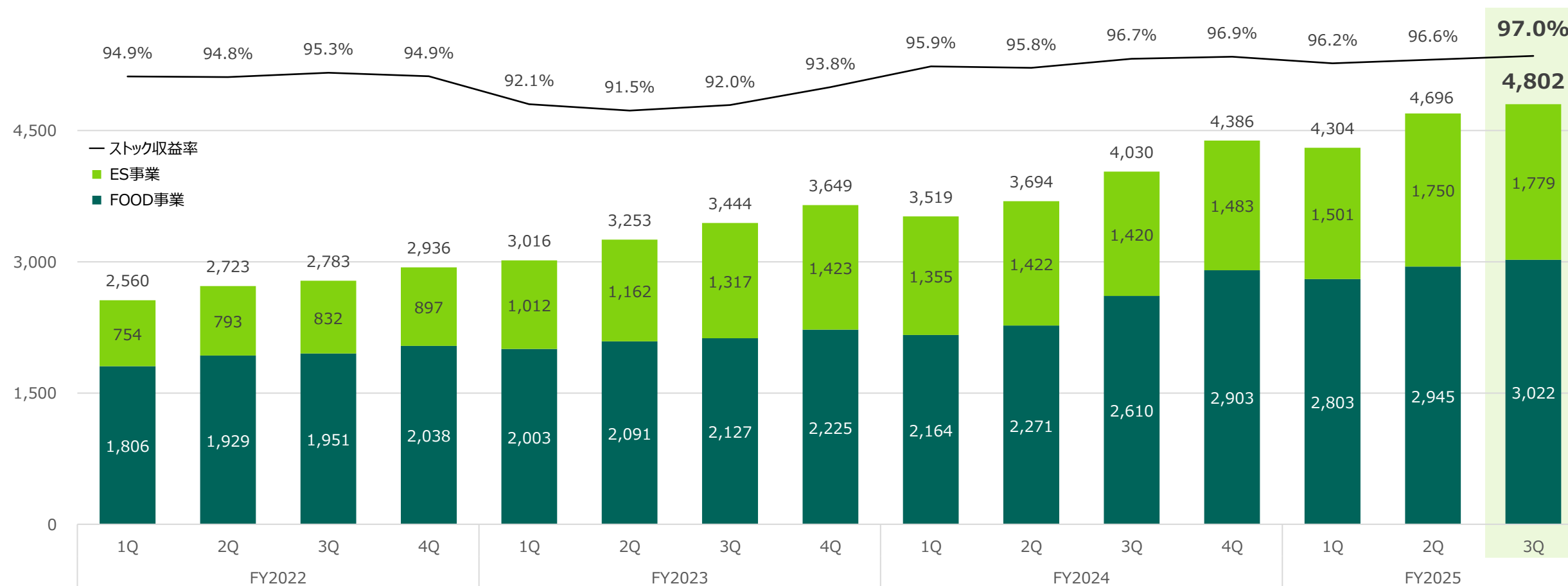
※「利用企業数」とはBtoBプラットフォームを利用する企業のうち重複企業を除いた企業数になります。



売上高推移

3Q売上は、過去最高の **4,802** 百万円、ストック収益率は97.0%と高水準を維持

(百万円)



売上高推移（3Q詳細）

- **FOOD事業** 受発注：外食チェーン及びホテル旅館業態等の新規利用の増加及び、料金改定により売上高が増加
受発注ライト&TANOMU：外食個店と食品卸売企業のデジタル化ニーズを捉えて高い成長を継続
- **ES事業** 請求書：インボイス制度開始後も大手企業・グループを中心とした導入の増加及び、4月からの料金改定により売上高が増加
TRADE：見積から請求までのデジタル化ニーズにより拡大し、成長が加速

■ FOOD事業

(百万円)

	FY2025 3Q累計	前期比
受発注	6,514	+29.4%
受発注ライト &TANOMU	825	+29.5%
その他	1,431	+4.2%
TOTAL	8,771	+24.5%

■ ES事業

(百万円)

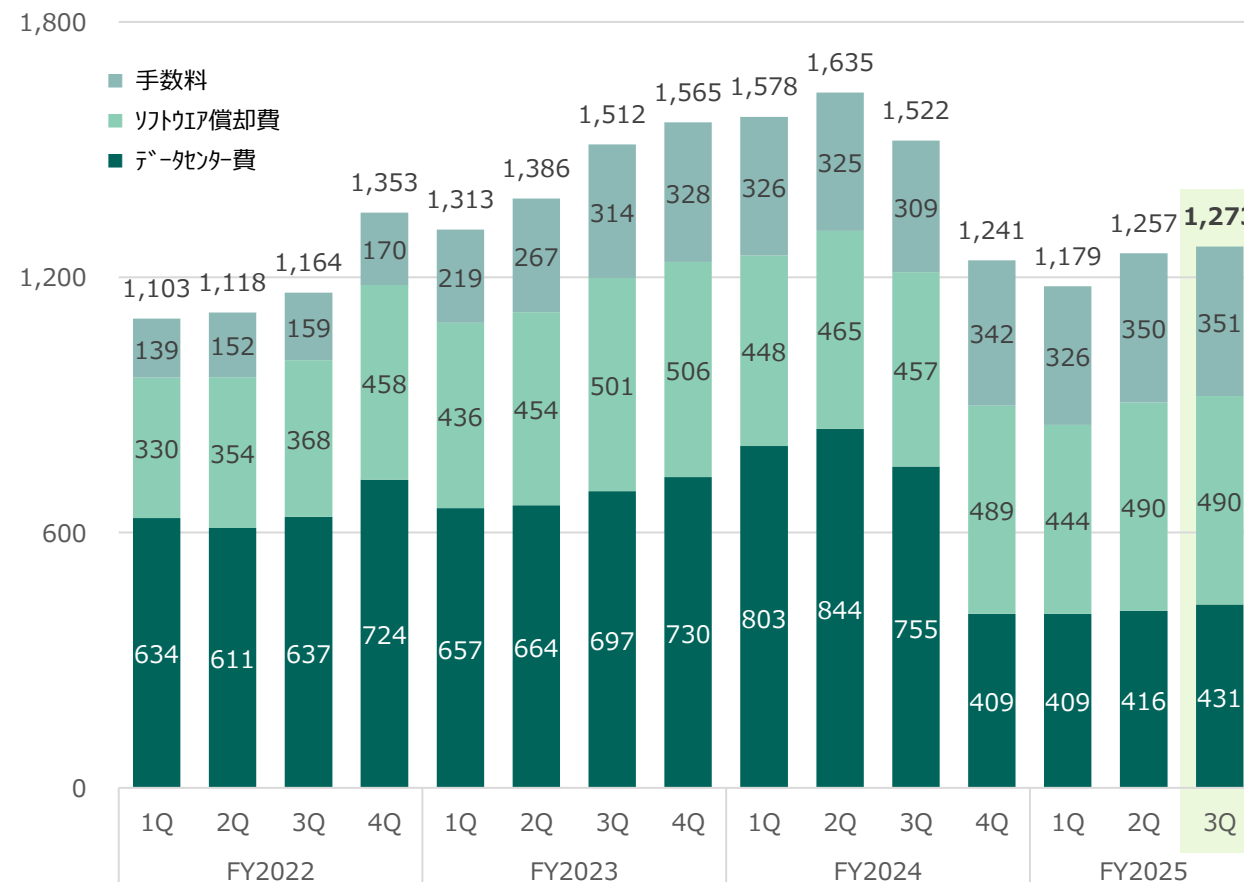
	FY2025 3Q累計	前期比
請求書	3,952	+21.7%
TRADE	319	+59.6%
その他	760	+1.4%
TOTAL	5,031	+19.9%

売上原価・売上総利益推移

- **3Q売上原価** : 昨年のデータセンターのクラウド移行により、データセンター費の低減が続く ※ 2Q比
- **3Q売上総利益** : 利益額、利益率が共に向上 ※ 2Q比

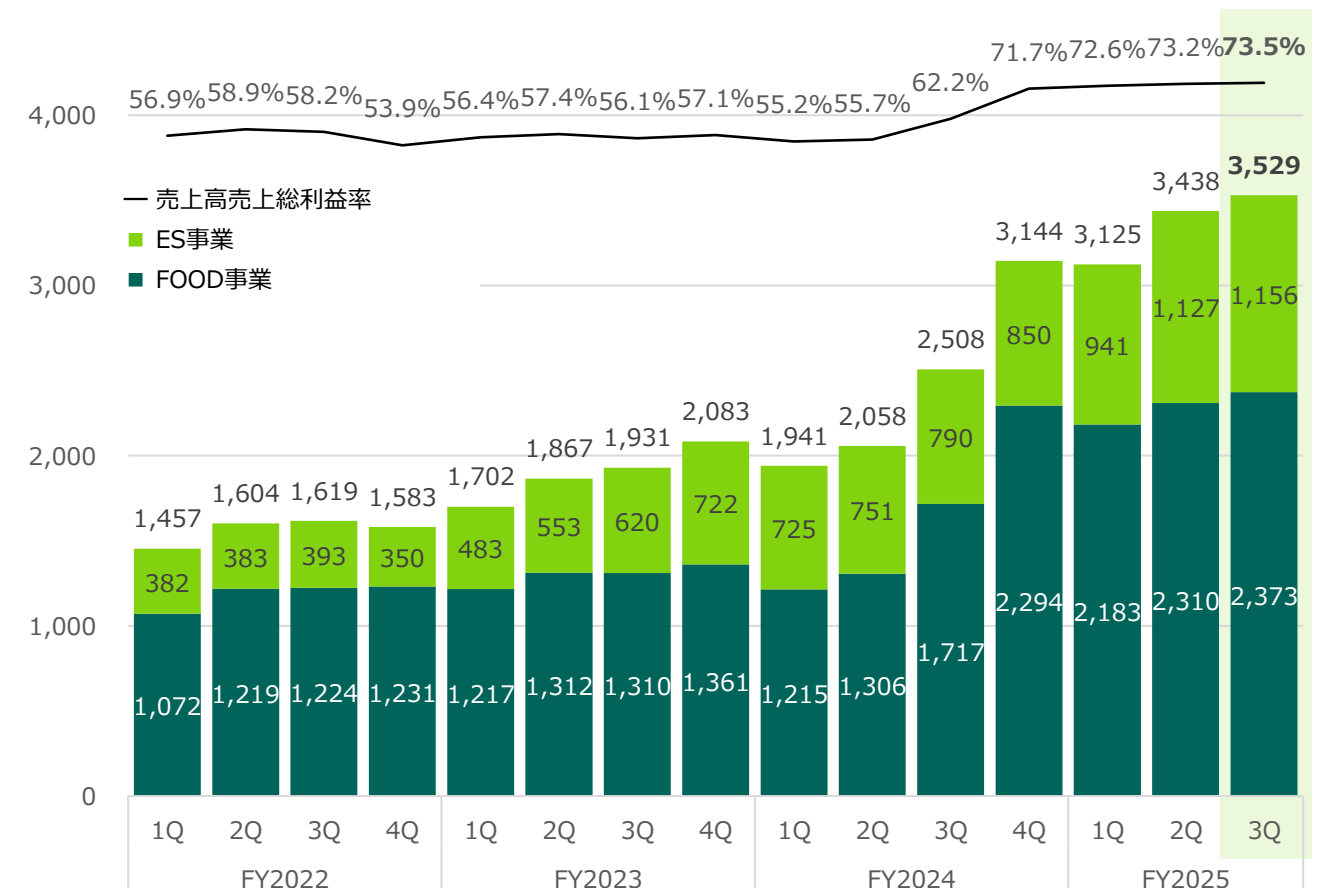
売上原価推移

(百万円)



売上総利益推移

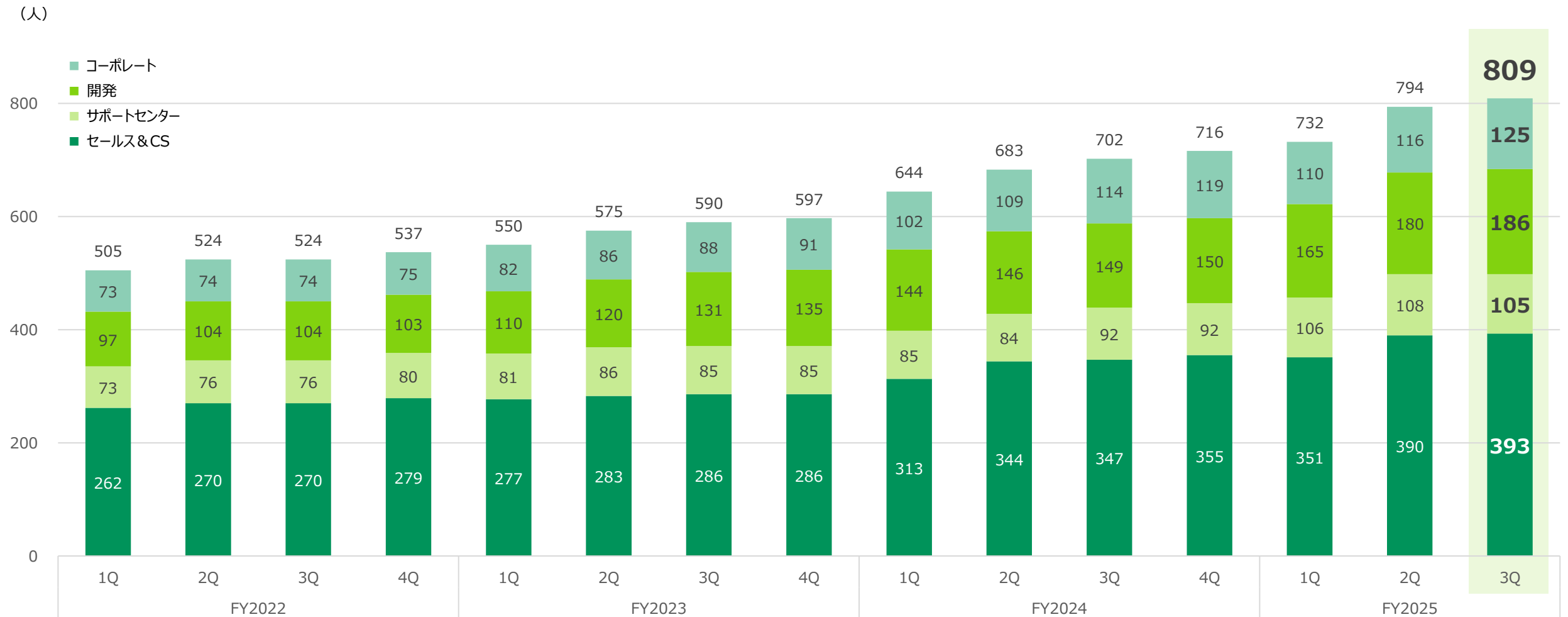
(百万円)



正社員数推移

- セールス&CS（カスタマーサクセス）及び、開発（エンジニア）、コーポレート人員が増加 ※ 2 Q比

※FY2024/ 1 Qより株式会社タノム従業員数を含む

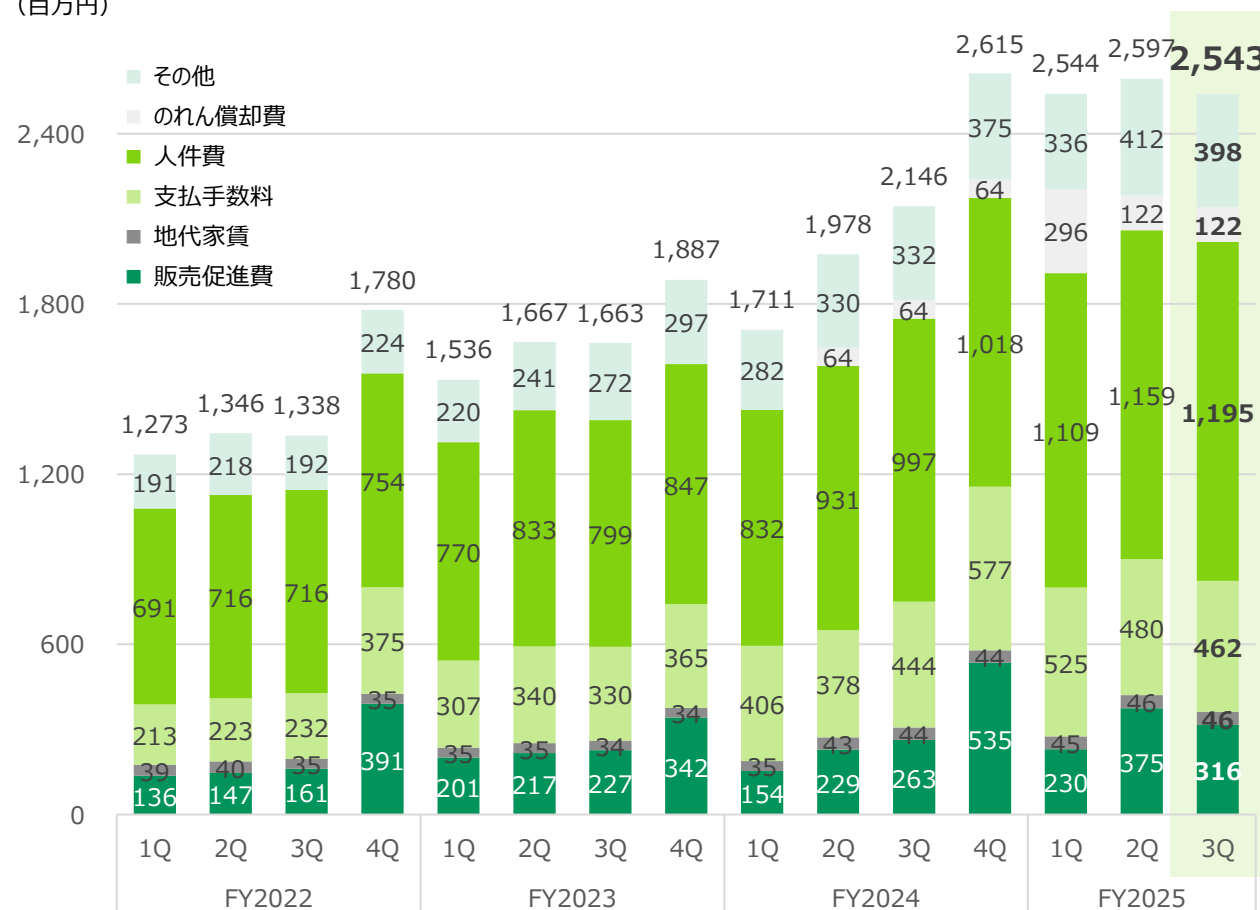


販管費・営業利益推移

- **3Q販売費及び一般管理費**：費用全体では低減が続く、販売促進費は4Qに集中して発生する見込 ※2Q比
- **3Q営業利益**：ES事業の黒字幅が拡大し、四半期営業利益率は20%台に回復 ※2Q比

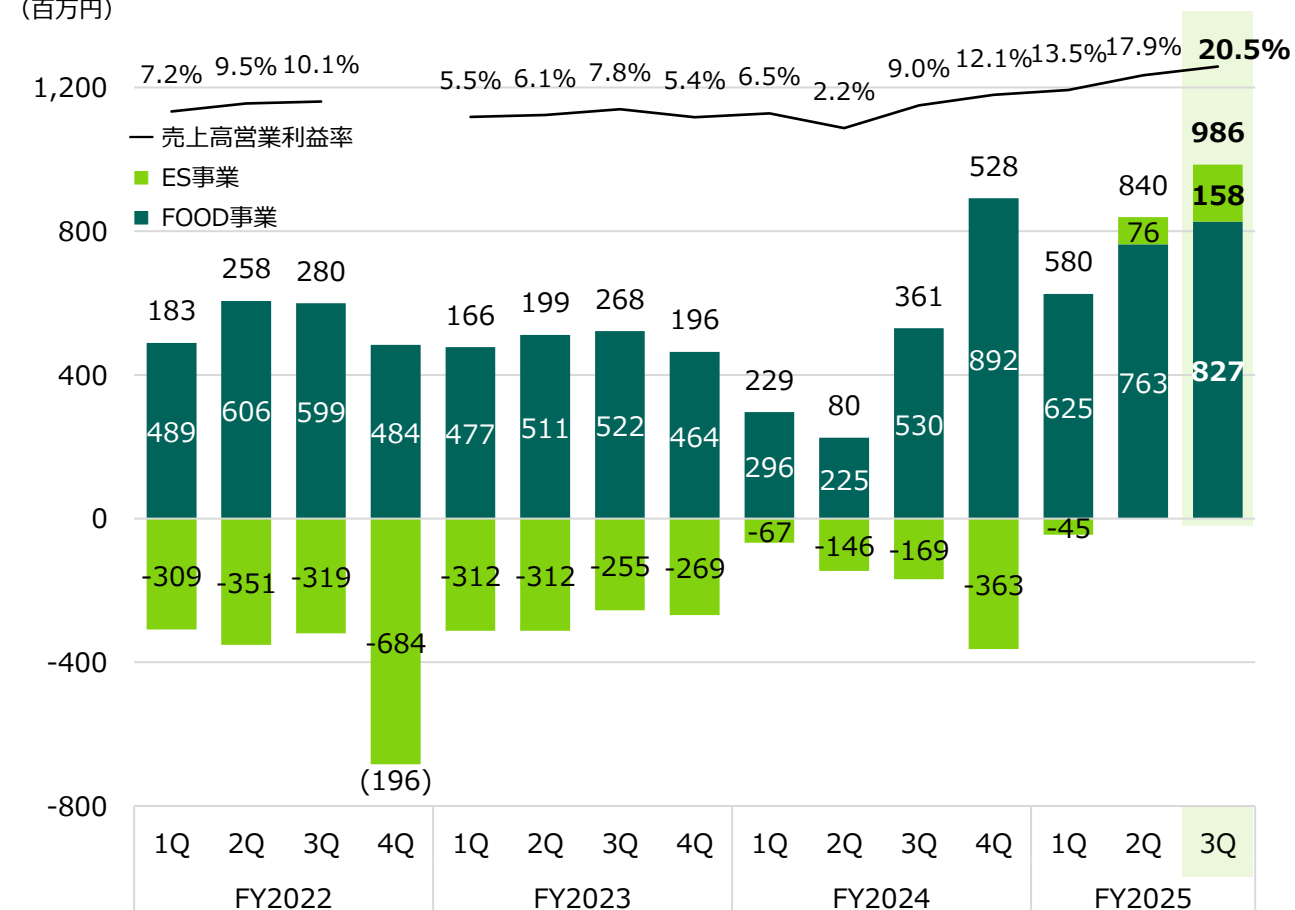
販管費推移

(百万円)



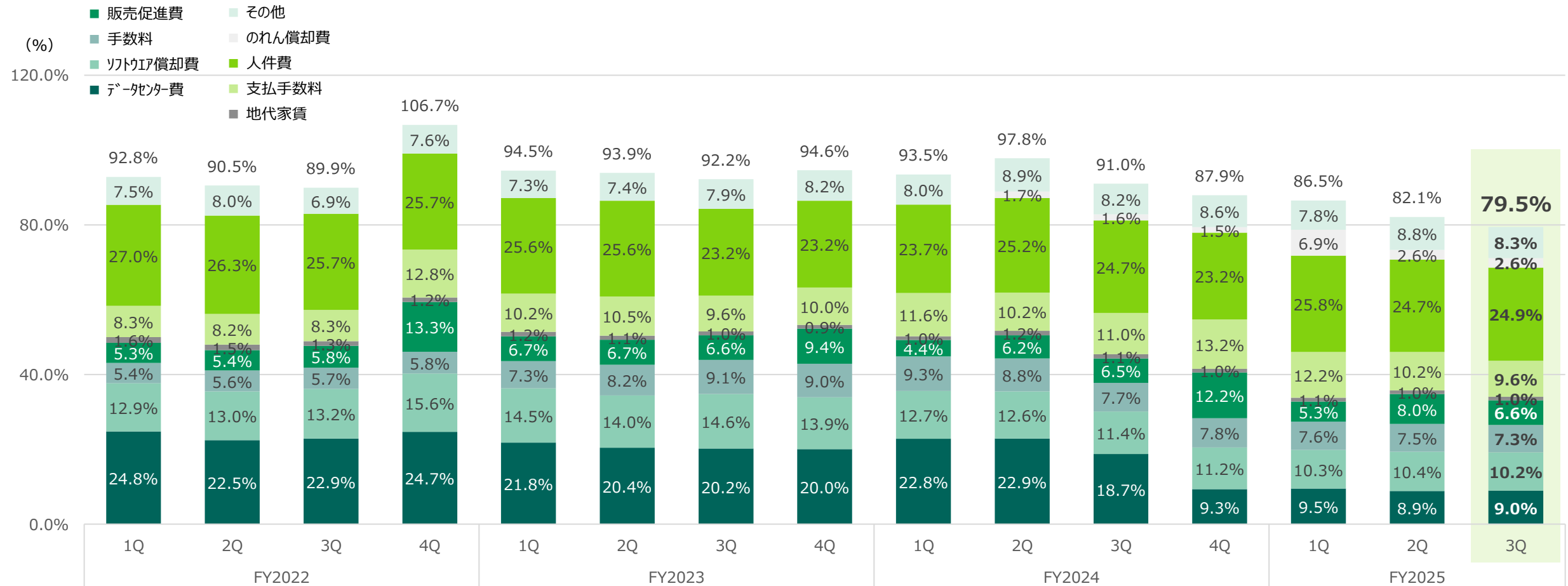
営業利益推移

(百万円)



売上原価・販管費構成比率（売上高比率）

- **3Q比率**：売上高の増加分が、売上原価と販管費の増加分を吸収し、2.6pt改善 ※ 2Q比



Ⅱ . 2025年12月期 連結業績予想の修正

2025年12月期 連結業績予想の修正について

2025年2月14日公表の2025年12月期 連結業績予想を、2025年10月31日に以下のとおり修正いたしました

(百万円)

	FY2025 前回予想	前期比	FY2025 今回予想	前期比	前回予想 今回予想差額	前回予想 今回予想増減率
売上高	19,491	+24.7%	18,823	+20.4%	-668	-3.4%
売上原価	5,913	-1.1%	5,152	-13.8%	-761	-12.9%
売上総利益	13,578	+40.7%	13,671	+41.6%	+92	+0.7%
（売上高売上総利益率）	69.7%	+7.9pt	72.6%	+10.9pt	+3.0pt	-
販売費及び一般管理費	11,278	+33.4%	10,862	+28.5%	-416	-3.7%
営業利益	2,300	+91.6%	2,809	+134.0%	+508	+22.1%
（売上高営業利益率）	11.8%	+4.1pt	14.9%	+7.2pt	+3.1pt	-
経常利益	2,283	+92.4%	2,790	+135.0%	+506	+22.2%
法人税等	948	+205.6%	1,036	+233.9%	+87	+9.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,356	+106.9%	1,500	+128.9%	+143	+10.6%

2025年12月期 連結業績予想の修正について（詳細）

（単位：百万円 / %：前年同期比増減率）

	FY2024通期		FY2025通期				
	実績	前期比	前回予想	前期比	今回予想	前期比	前回予想 今回予想差額
【売上高】	15,630	17.0%	19,491	24.7%	18,823	20.4%	-668
BtoB-PF FOOD	9,949	17.8%	12,054	21.2%	11,938	20.0%	-116
BtoB-PF ES	5,681	15.6%	7,437	30.9%	6,885	21.2%	-552
【売上原価】	5,977	3.5%	5,913	-1.1%	5,152	-13.8%	-761
BtoB-PF FOOD	3,414	5.2%	2,793	-18.2%	2,641	-22.6%	-152
BtoB-PF ES	2,564	1.1%	3,119	21.6%	2,510	-2.1%	-609
【売上総利益】	9,653	27.3%	13,578	40.7%	13,671	41.6%	92
BtoB-PF FOOD	6,534	25.6%	9,260	41.7%	9,296	42.3%	35
BtoB-PF ES	3,116	31.0%	4,317	38.5%	4,374	40.4%	57
【販管費】	8,452	25.1%	11,278	33.4%	10,862	28.5%	-416
BtoB-PF FOOD	4,589	42.3%	6,968	51.8%	6,573	43.2%	-394
BtoB-PF ES	3,863	9.5%	4,309	11.6%	4,288	11.0%	-21
【営業利益】	1,200	44.6%	2,300	91.6%	2,809	134.0%	508
BtoB-PF FOOD	1,944	-1.6%	2,292	17.9%	2,722	40.0%	430
BtoB-PF ES	-746	-	7	-	86	-111.5%	78
【経常利益】	1,187	87.8%	2,283	92.4%	2,790	135.0%	506
【親会社株主に帰属する 当期純利益】	655	119.6%	1,356	106.9%	1,500	128.9%	143
売上高売上総利益率	61.8%		69.7%		72.6%		
BtoB-PF FOOD	65.7%		76.8%		77.9%		
BtoB-PF ES	54.9%		58.1%		63.5%		
売上高営業利益率	7.7%		11.8%		14.9%		
BtoB-PF FOOD	19.5%		19.0%		22.8%		
BtoB-PF ES	-		0.1%		1.3%		
売上高経常利益率	7.6%		11.7%		14.8%		

● 売上高

BtoB-PF FOOD事業

「BtoBプラットフォーム 受発注」：フード業界における幅広い業態での買い手企業とその店舗及び取引先の売り手企業の新規契約数が計画を上回って順調に増加することが見込まれますが、売り手企業からの従量課金のシステム使用料が若干積極的に設定した会社計画を下回り、「BtoB-PF FOOD事業」全体では116百万円計画を下回る見込みです。

BtoB-PF ES事業

「BtoBプラットフォーム 請求書」：新規有料契約数の増加及び稼働（請求書のデジタル化）が順調に推移することが見込まれますが、システム使用料が積極的に設定した計画を下回り、「BtoB-PF ES事業」全体では552百万円計画を下回る見込みです。

● 売上原価

主に「BtoB-PF ES事業」の「BtoBプラットフォーム 請求書」における売上高に応じ変動する手数料の未発生を見込むことから、761百万円計画を下回る見込みです。

● 売上総利益

売上高が計画を下回る見込みを売上原価の未発生が補い、両事業とも計画を上回る見込みです。

● 販管費

主に保守的に計画した人件費及び支払手数料等の未発生により、416百万円計画を下回る見込みです。

● 営業利益・経常利益

保守的に計画した販管費の未発生により、計画を上回る見込みです。

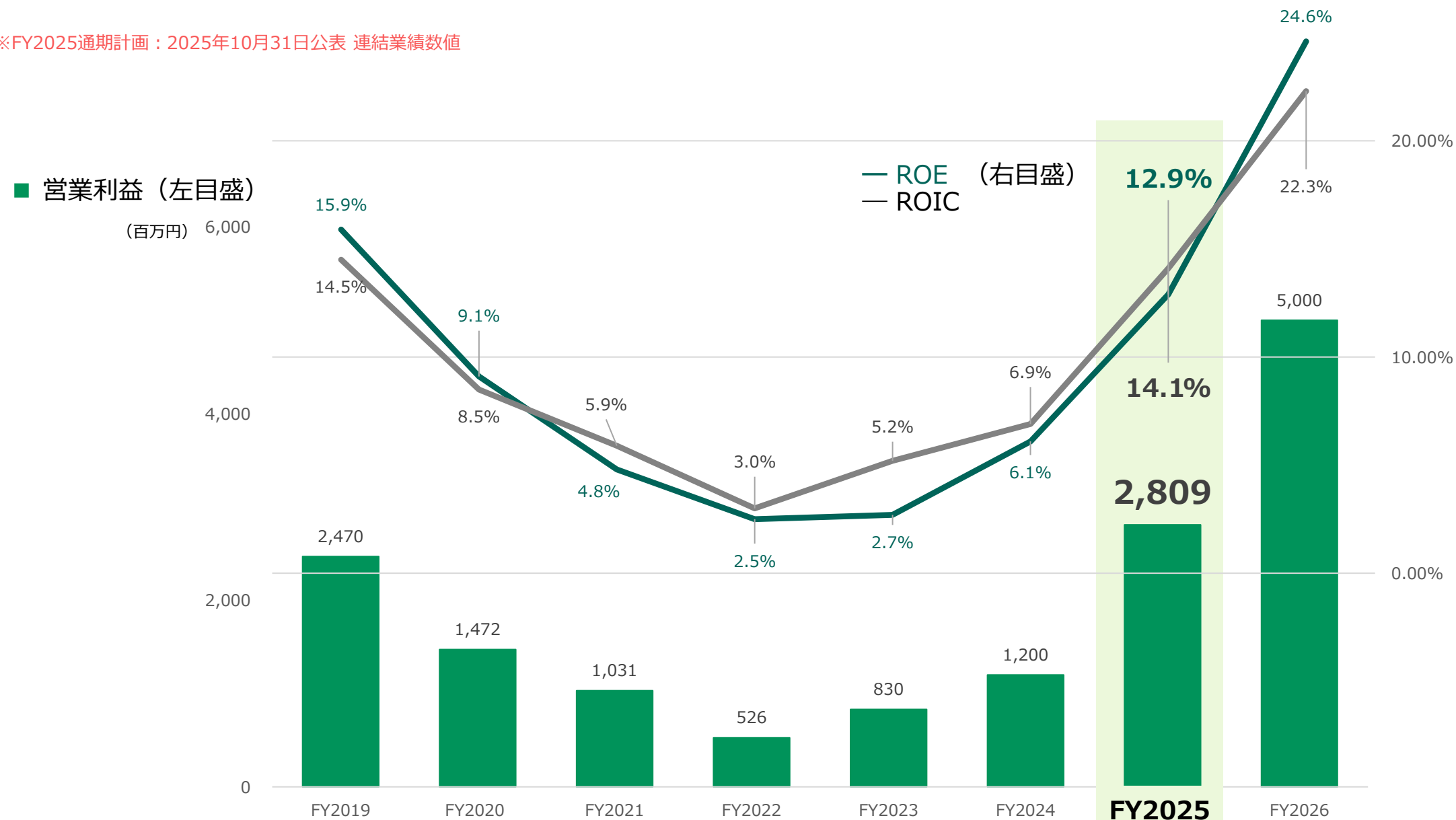
● 当期純利益

ソフトウェアの減損損失の計上の可能性を考慮し、保守的に見積もっております。



ROE、ROIC推移

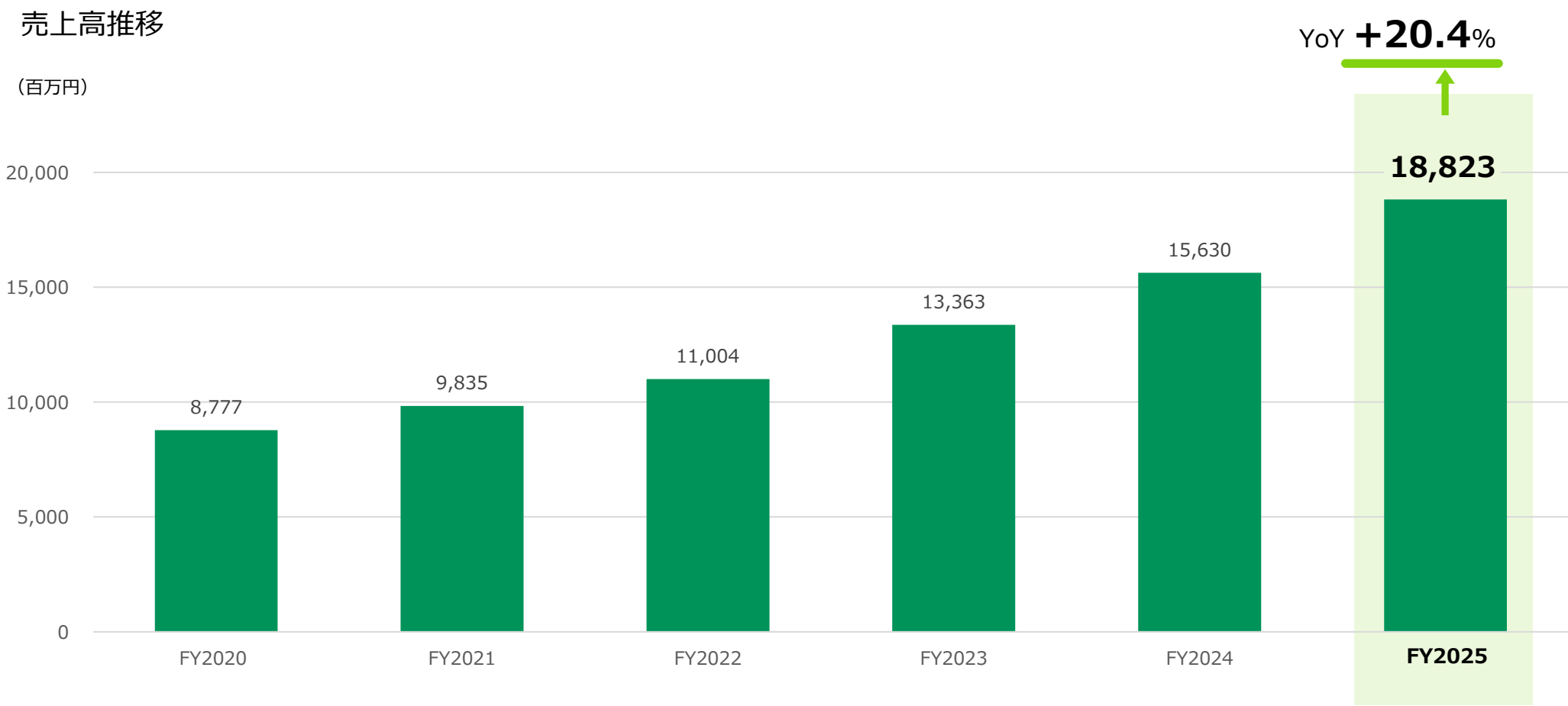
※FY2025通期計画：2025年10月31日公表 連結業績数値





2025年12月期 連結業績予想 売上高推移

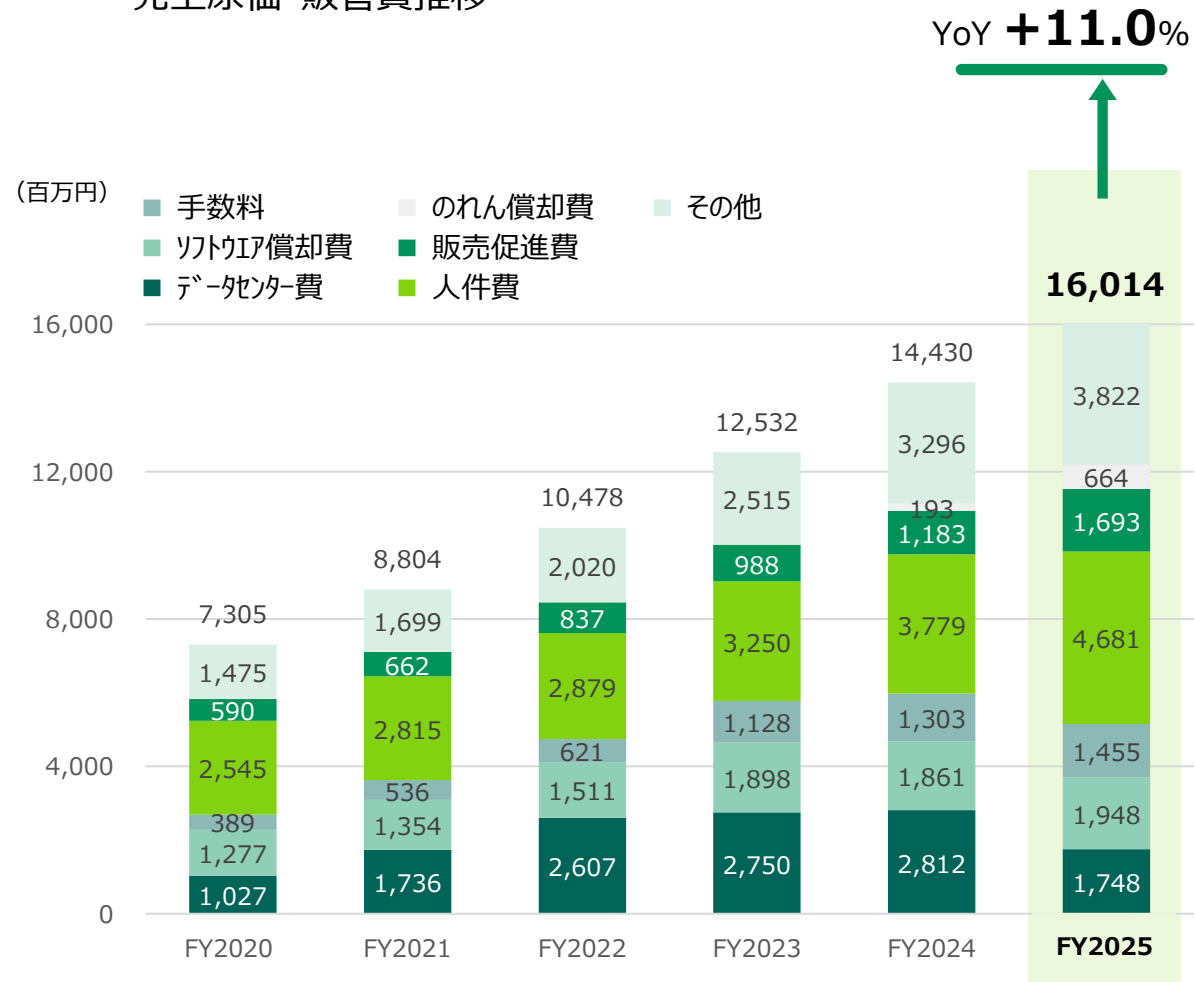
※FY2025通期計画：2025年10月31日公表 連結業績数値



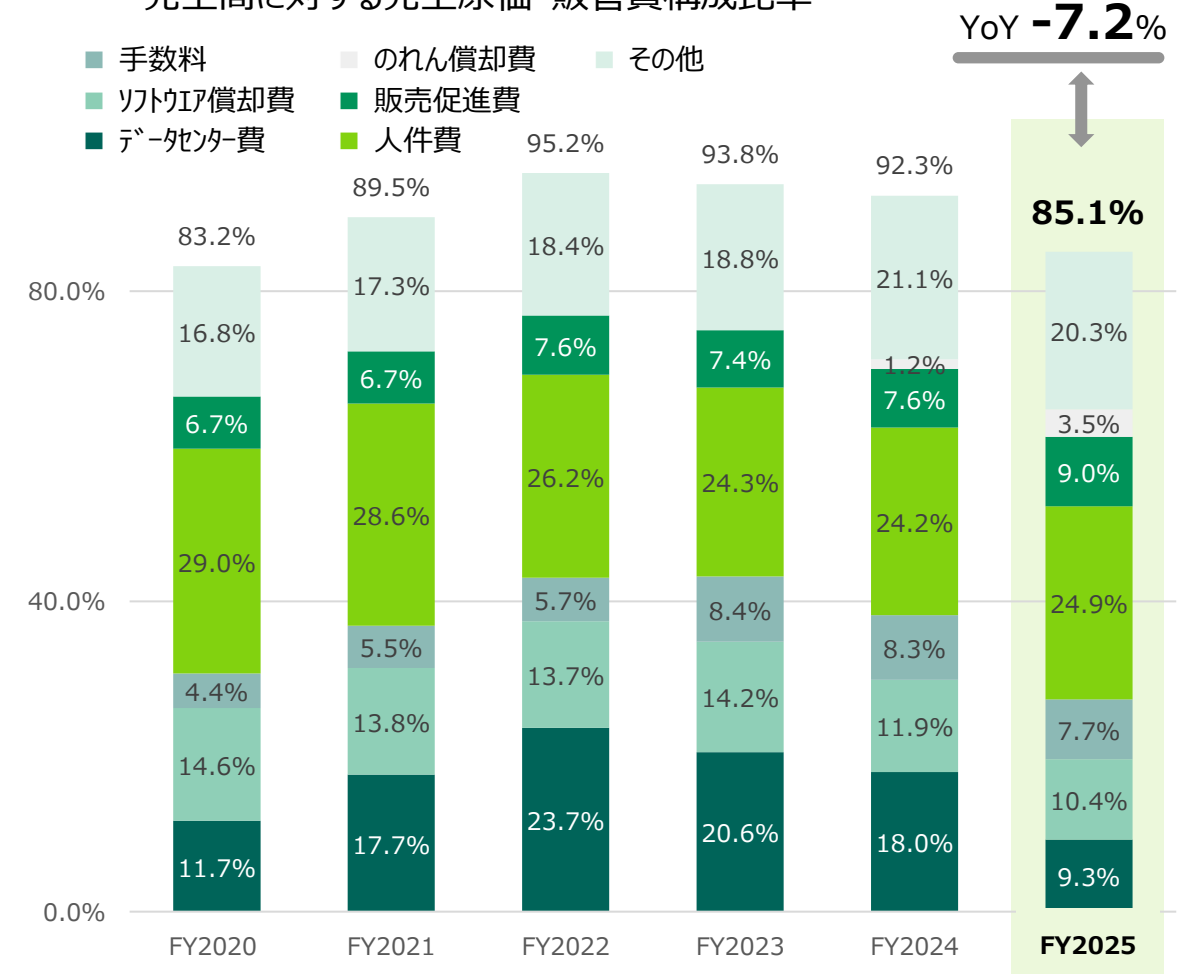
2025年12月期 連結業績予想 売上原価・販管費推移

※FY2025通期計画：2025年10月31日公表 連結業績数値

売上原価・販管費推移



売上高に対する売上原価・販管費構成比率

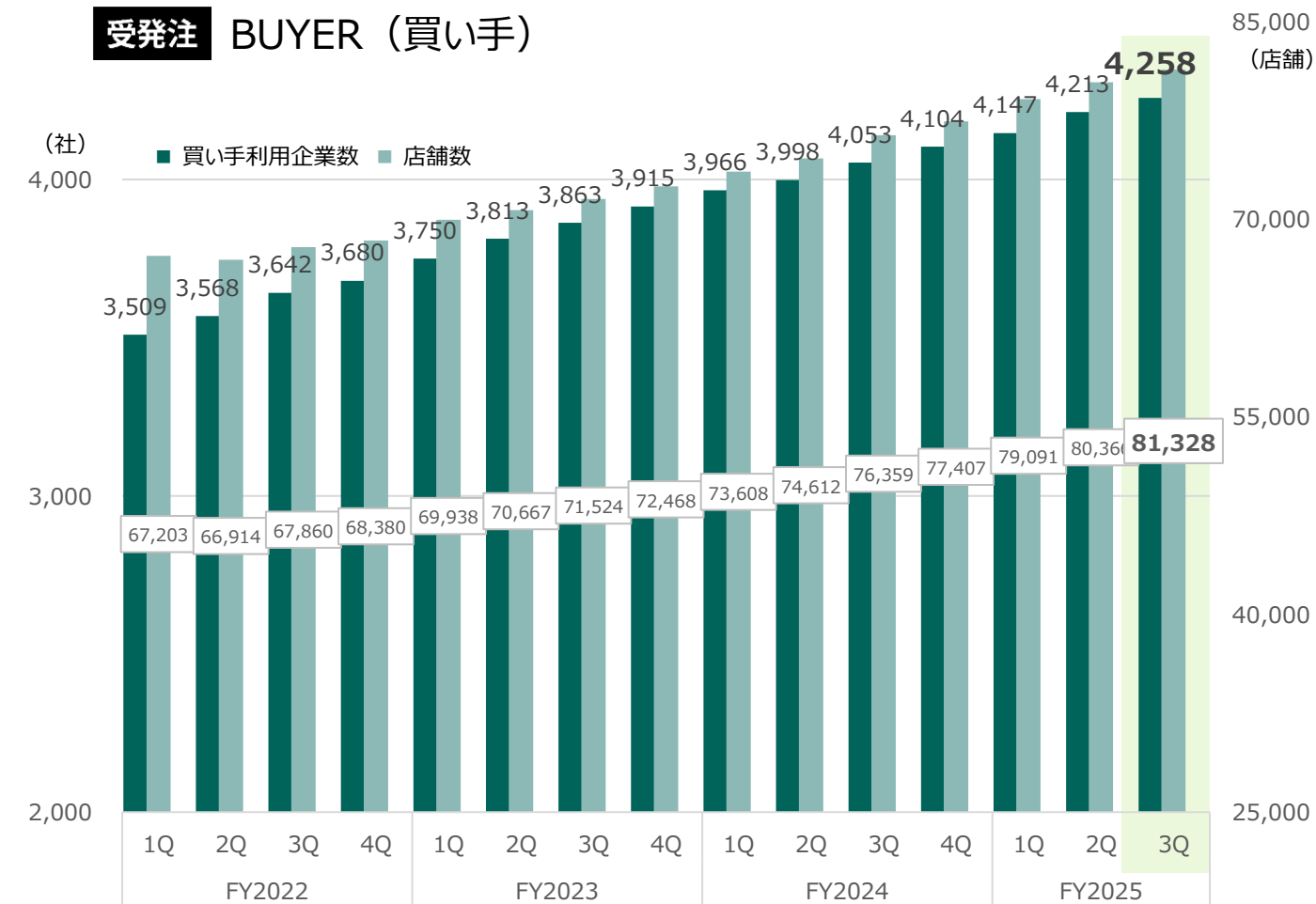


Ⅲ. セグメント別の状況

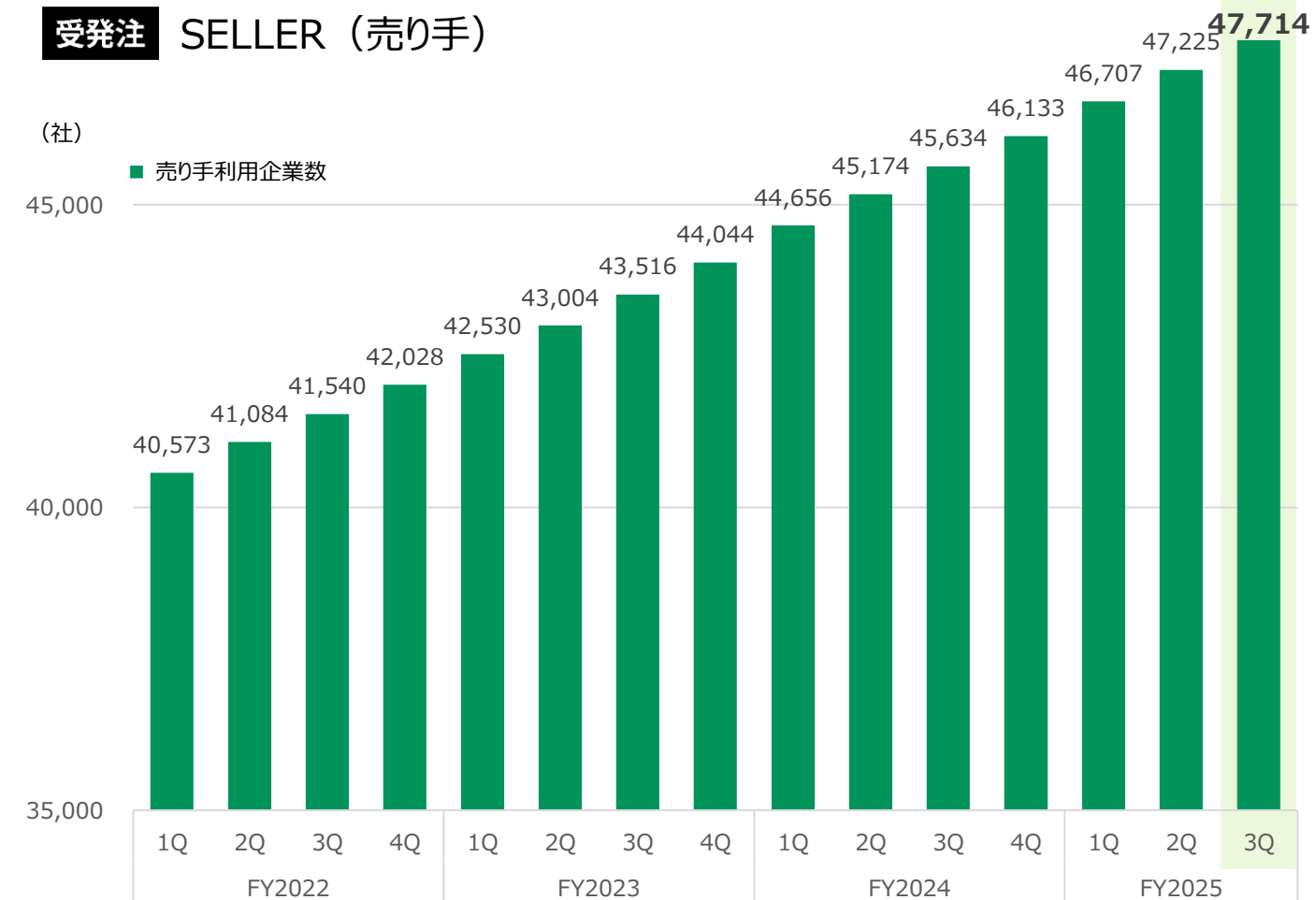
(1) FOOD 事業の状況

FOOD事業 利用企業数推移

受発注 BUYER (買い手)



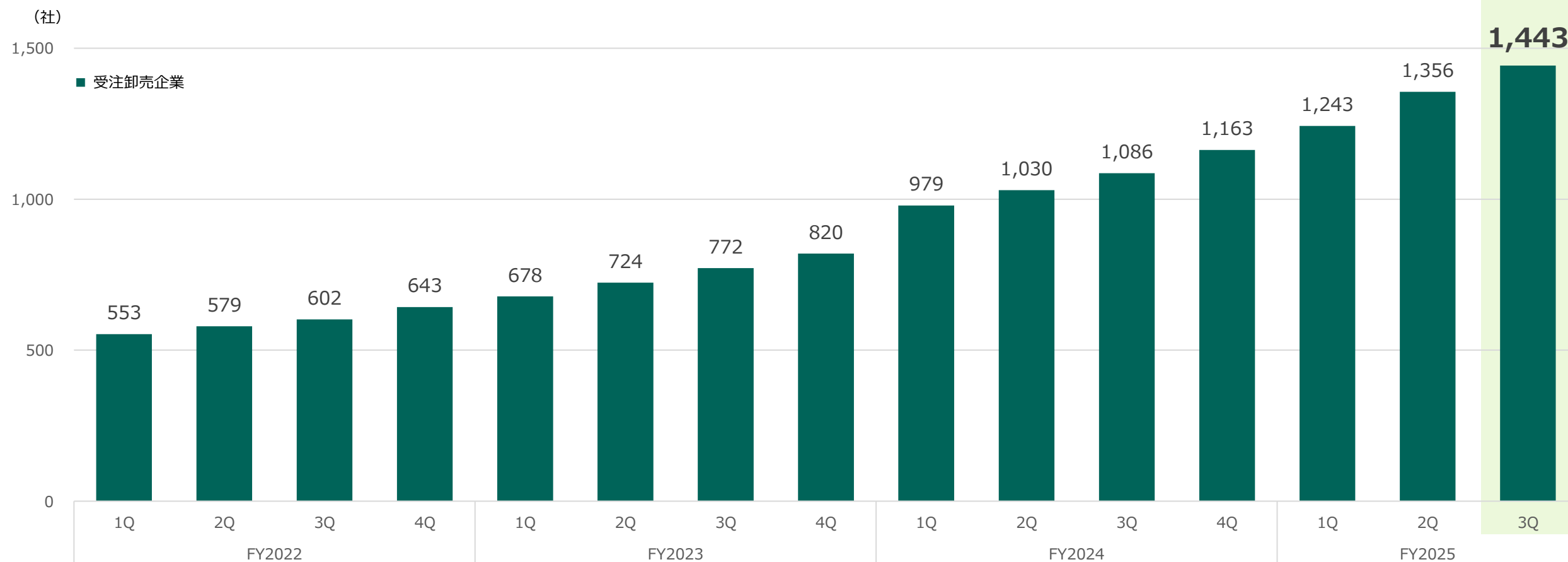
受発注 SELLER (売り手)



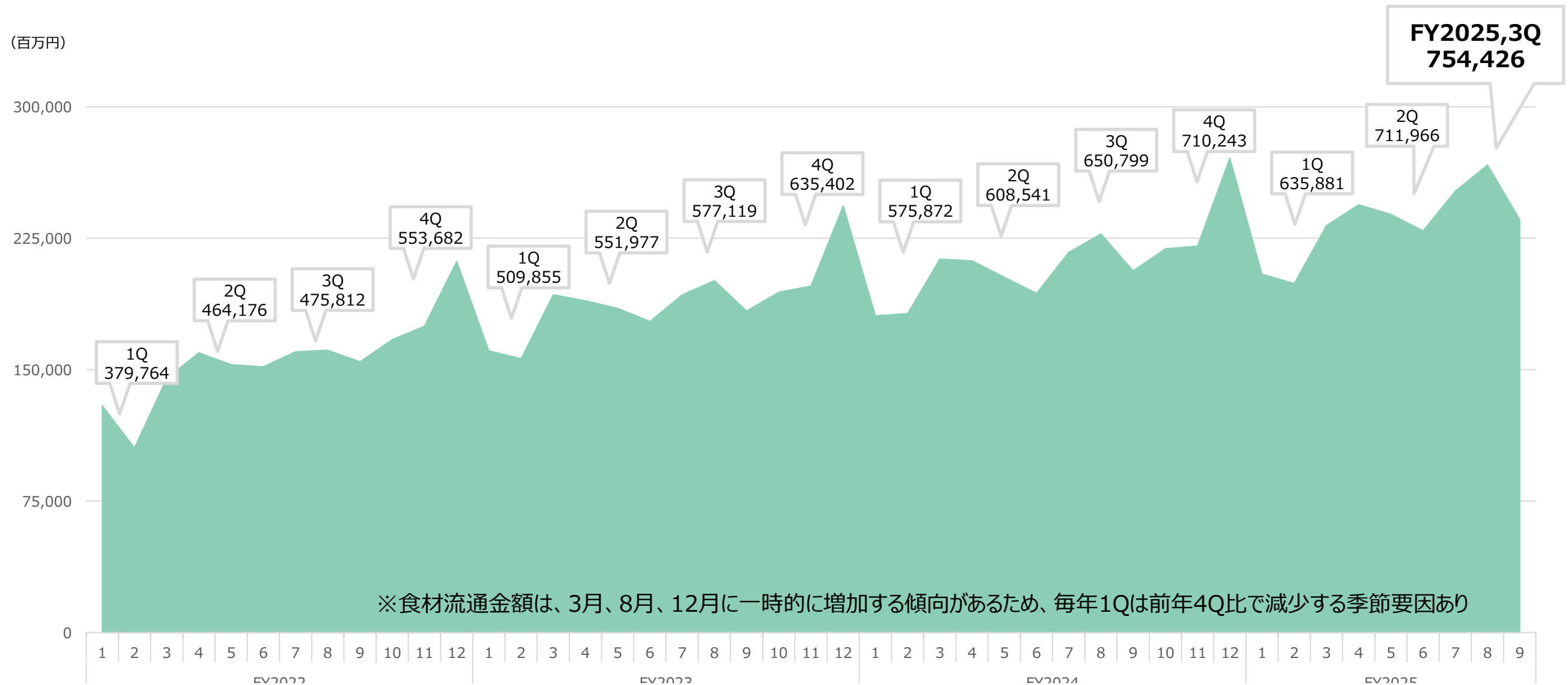


FOOD事業 利用企業数推移

受発注 ライト WHOLESALE (受注卸売企業) TANOMU



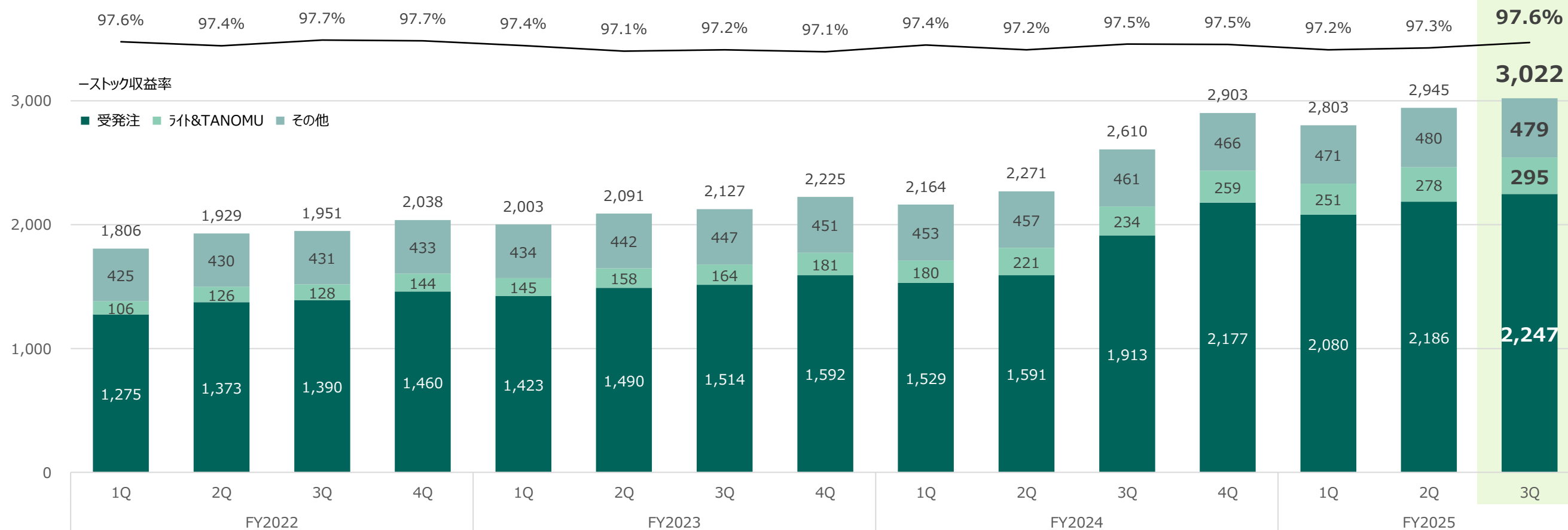
FOOD事業 流通金額（参考）



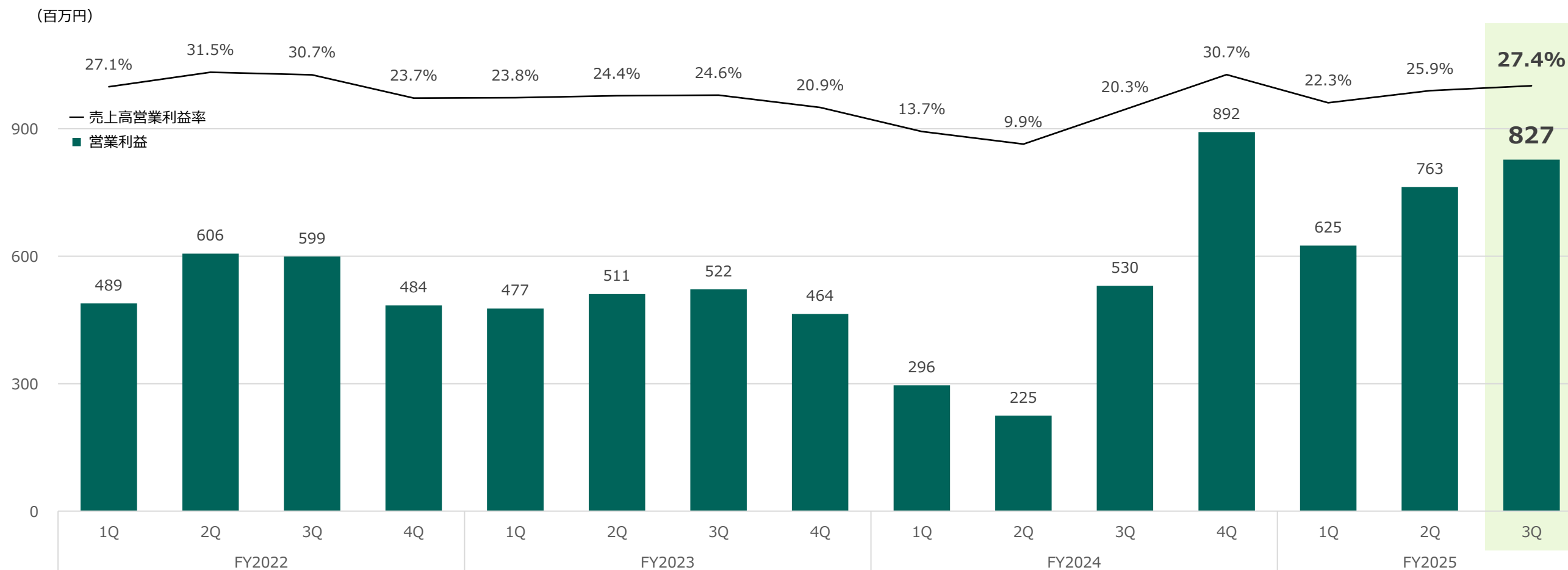


FOOD事業 売上高推移

(百万円)



FOOD事業 営業利益推移

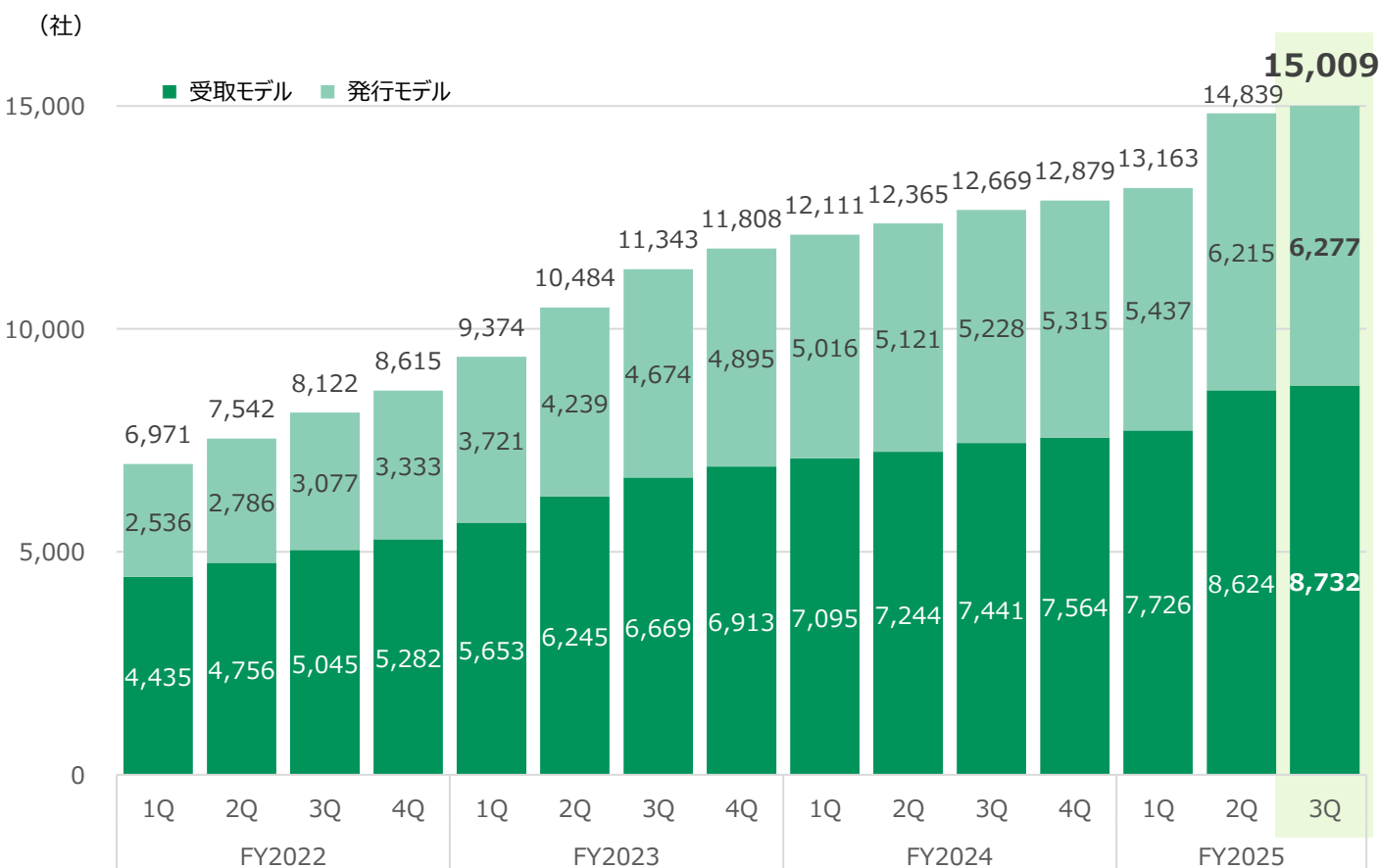


(2) ES 事業の状況

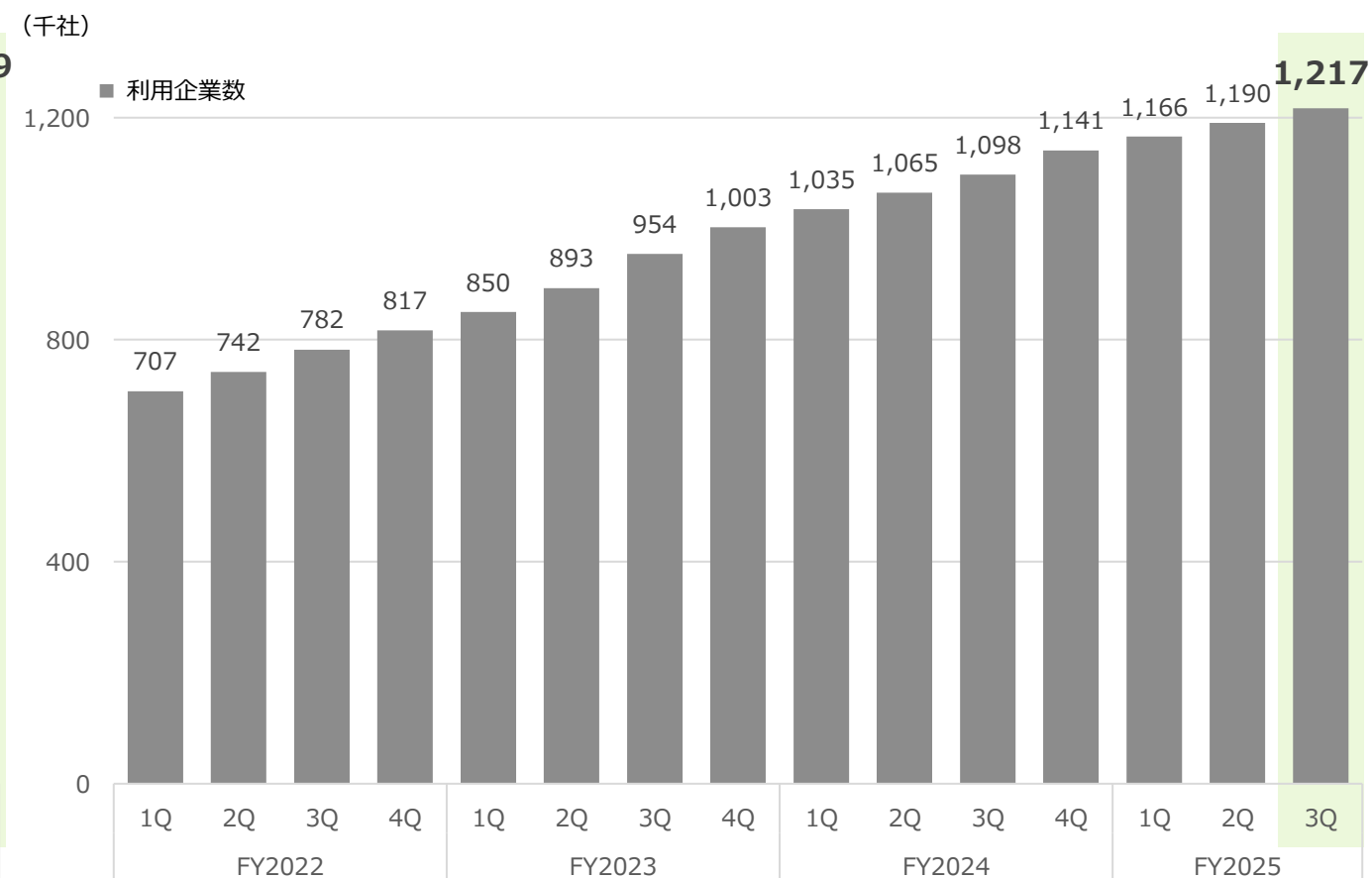


ES事業 利用企業数推移

請求書 PAVING USER（有料企業数）



請求書 USER（利用企業数）

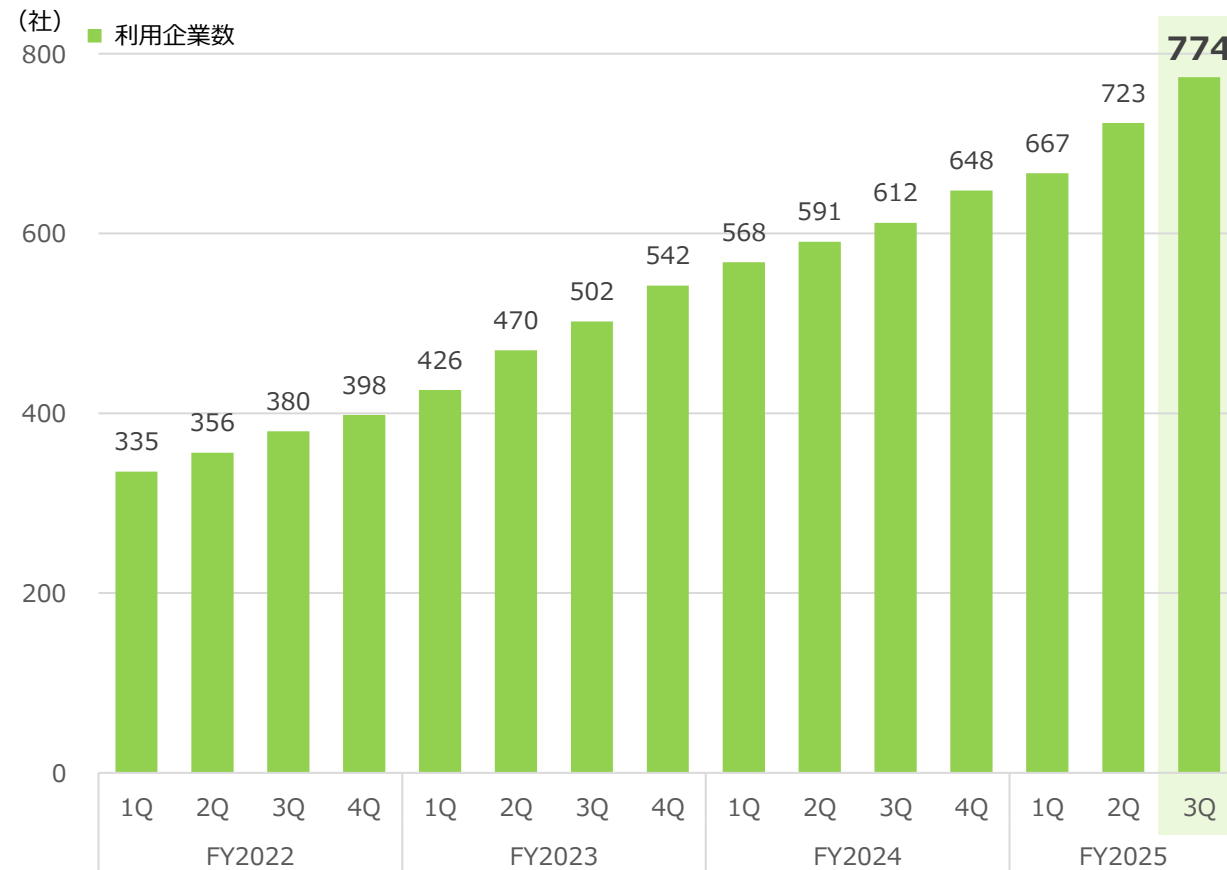


※請求書 有料企業数：2025年4月（2Q期間）の基本料金改定により、受取モデルと発行モデルの両方が利用可能となった利用企業数が増加

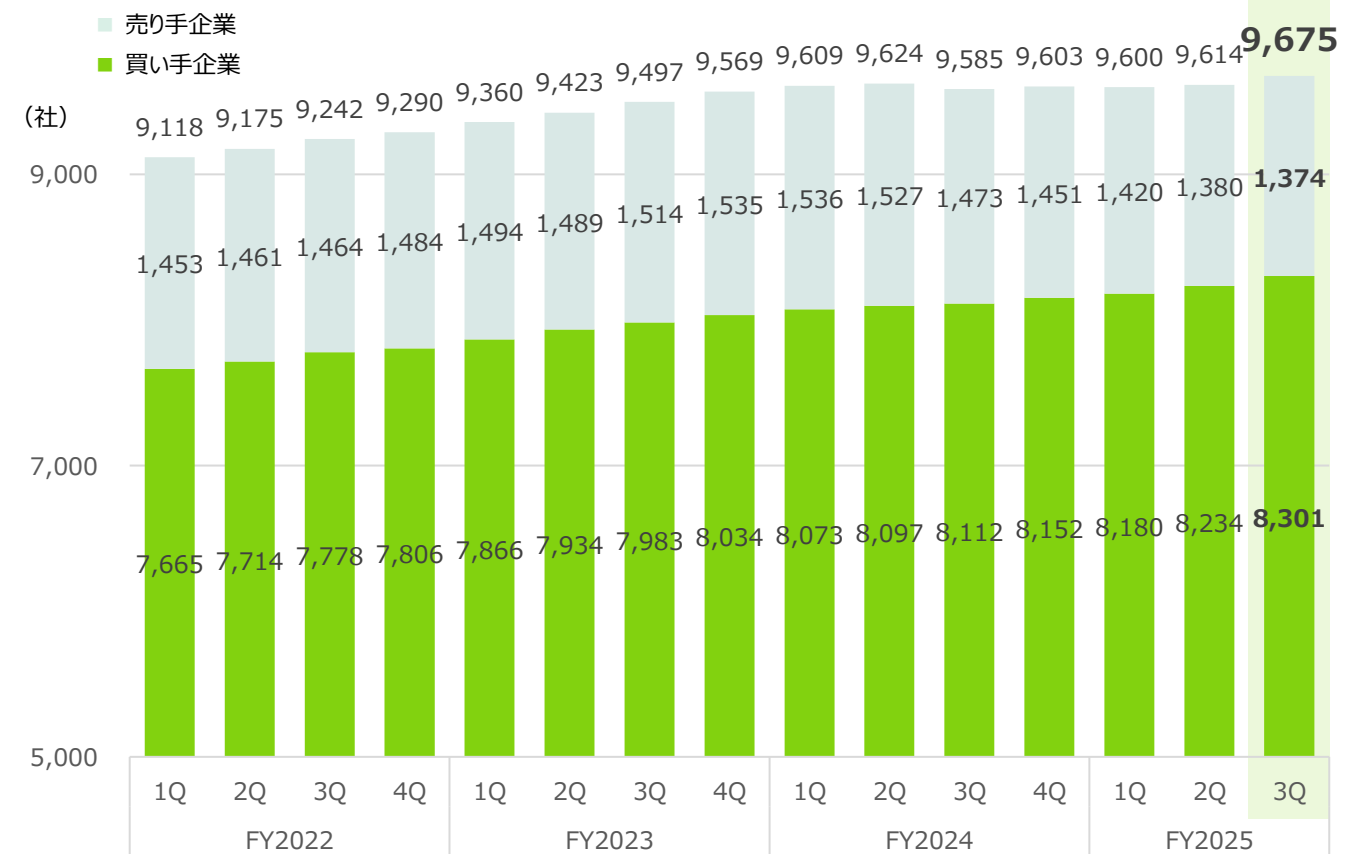


ES事業 利用企業数推移

契約書 PAYING USER (有料企業数)



商談 PAYING USER (有料企業数)

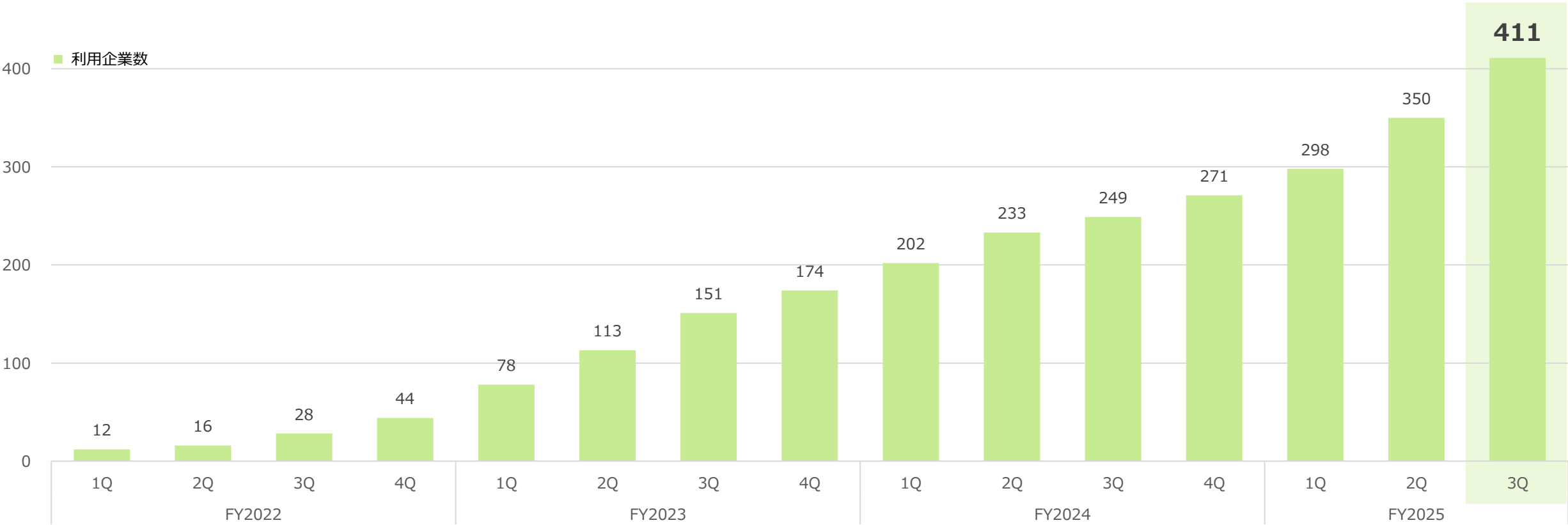




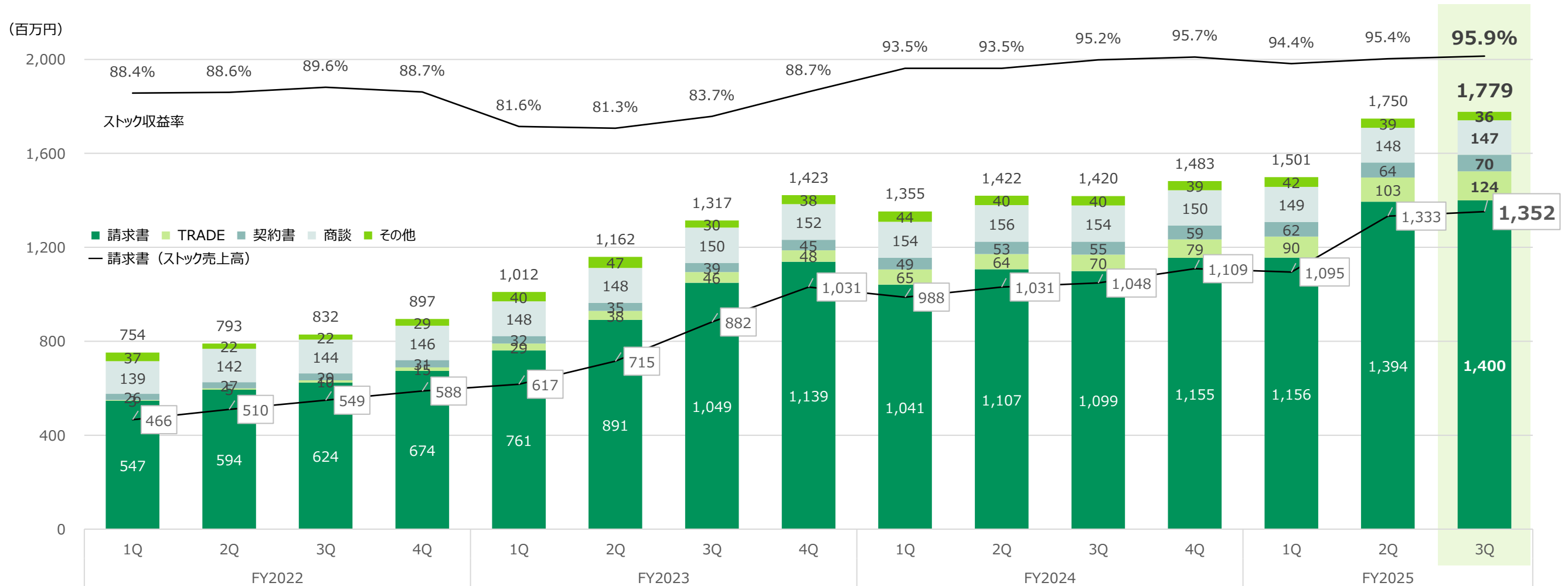
ES事業 利用企業数推移

TRADE PAYING USER (有料企業数)

(社)

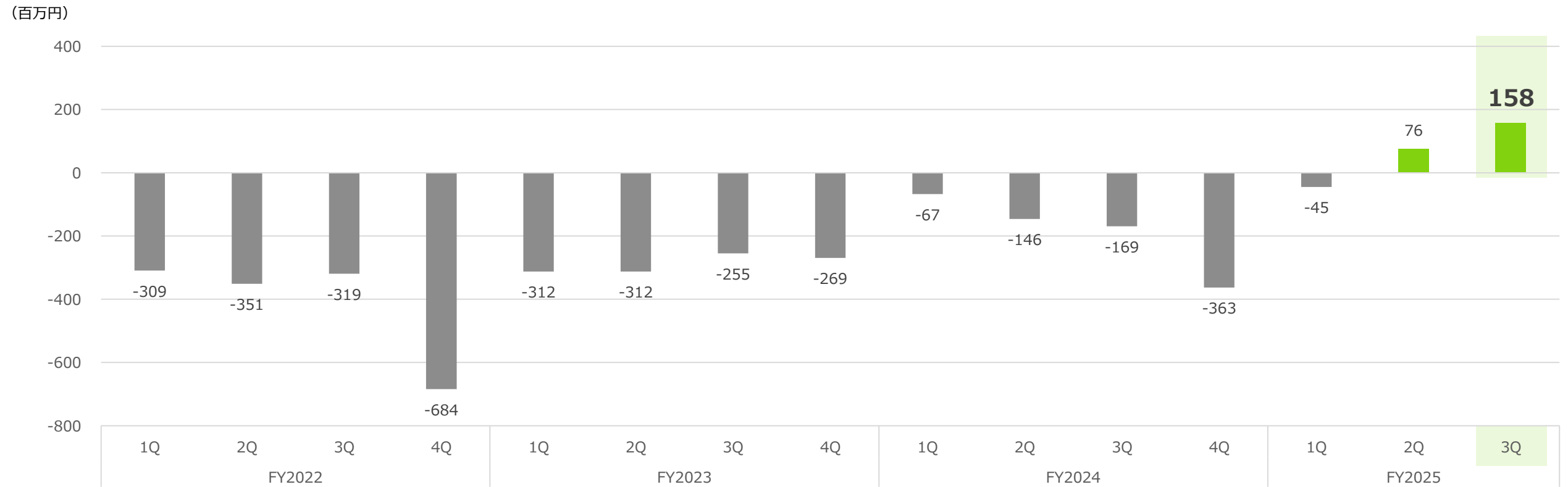


ES事業 売上高推移





ES事業 営業利益推移



IV. 事業ビジョン及び中期経営方針

事業ビジョン

■ 進むべき方向

当社の強みであるDtoD方式※1 の「BtoBプラットフォーム」を最大限活かし、

「DtoDを業界特化でスピーディーに世に広め、顧客満足度も当然高めつつ、フードの様な業界を沢山作る」

= “業界DtoD戦略” ※2 で事業領域の深化拡大を目指す。

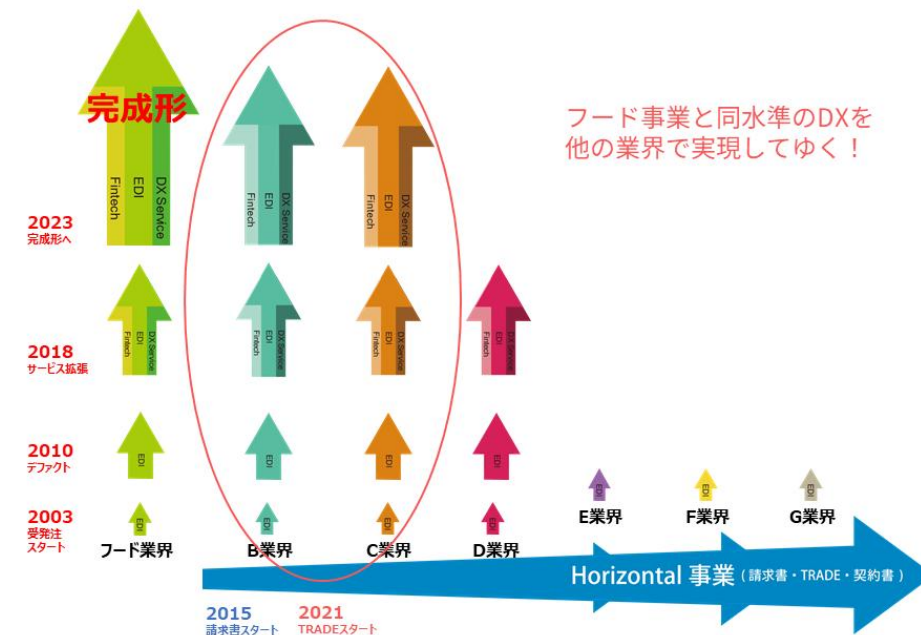
※1 DtoD (Data to Data): 商談・契約・見積・受発注・請求書・帳票保管などの企業間で発生する全ての工程がデジタルデータのまま推移する
アナログデータへの変換によるムダが一切ない“完全デジタル化”を実現

※2 業界DtoD戦略: 全業界向けサービス(BtoB-PF 請求書やBtoB-PF TRADE等)を普及(Horizontal展開)させ普及活動の中から
商流DXニーズが高い特定の業界を深掘り(Vertical展開)することで大きな業界貢献と収益をあげてゆく戦略

■ 事業ビジョン

業界DtoDのトップ企業

- ▶ 業界DtoD戦略で本物のデジタル化を提供しているNo.1企業
- ▶ フード事業と同水準のDXを多くの業界で実現
- ▶ 会社レベルのDXを超え、業界全体のDXを実現



中期経営方針

中期経営方針を以下のとおり見直しました。

● **本業（BtoBプラットフォーム）の強化**

強化とは、「機能強化（新サービス・新プロダクトの創出含む）」「販売力強化」「認知度向上」「CS向上」のことを指し、今後はこれらに資源を集中する

● **増収増益基調の継続、高収益性への回帰**

※ 従前方針は「成長に向けた積極投資」

- ✓ 低水準利益 & 減益のトレンドは2022年度(3期連続)で終えて2023年度以降は増益基調に
- ✓ 2026年度の業績目標（売上高200億円、営業利益50億円、売上高営業利益率25%）
- ✓ 3年間平均のCAGR（売上高成長率）16%（FOOD事業：8%、ES事業：30%）

● **出資先の「シナジー拡大」&「収益化」**

※ 従前方針は「収益源多角化の加速」

- ✓ 既存出資先の出資目的の実現に注力
- ✓ 新規出資は買収を見据えた中型以上のものへシフト

“本業（BtoBプラットフォーム）の強化”の推進

● 既存事業の推進

BtoB-PF FOOD事業

- ✓ 「BtoBプラットフォーム 受発注」の事業領域拡大（外食チェーン、ホテル、給食に加え、地方や他業態（ホテル旅館）のDX推進）
- ✓ 卸の受注100%デジタル化（「TANOMU」拡販）
- ✓ 店舗オペレーション管理ツール「V-Manage」拡販
- ✓ 料金改定とCustomer Success強化

BtoB-PF ES事業

- ✓ 「BtoBプラットフォーム 請求書」の更なる拡大（地方営業強化、地方自治体展開、認知拡大、パートナー強化等）と、既存ユーザーのCustomer Success強化（ARPU向上）
- ✓ 「BtoBプラットフォーム TRADE」の躍進（業界特化の受発注を推進）

● 事業ビジョン実現に向けた布石

BtoB-PF FOOD事業

- ✓ 個別業界深堀り（Vertical展開）の完成形追求と確立

BtoB-PF ES事業

- ✓ 全業界サービス普及（Horizontal展開）を足掛かりとした特定業界へのVertical展開



100万社の顧客基盤に基づく商流データを活用し、新たな収益源を育てる



■ 債権（売り手）側の取り組み

- ① 請求書の早期資金化：電子請求書早払い
 - ▶ 発行済みの請求書（売掛金）をオンラインで素早く資金化
- ② 請求業務代行、売掛保証：掛売決済
 - ▶ 与信管理、代金回収、督促等の請求業務の代行から、売掛保証までを一気通貫でアウトソース
- ③ ネットバンキング上で入金消込
 - ▶ 金融機関のインターネットバンキングサービスと連携し、入金消込業務を簡単に

● : リリース済 ● : 開発中

■ 債務（買い手）側の取り組み

- ① 受領した請求書と決済のデジタル接続
 - ▶ 請求書受領から決済までをシームレスにデジタル完結
- ② 支払い延長
 - ▶ プラットフォーム上の簡単な手続きにより、支払い期限の延長を実現

● : リリース済 ● : 開発中

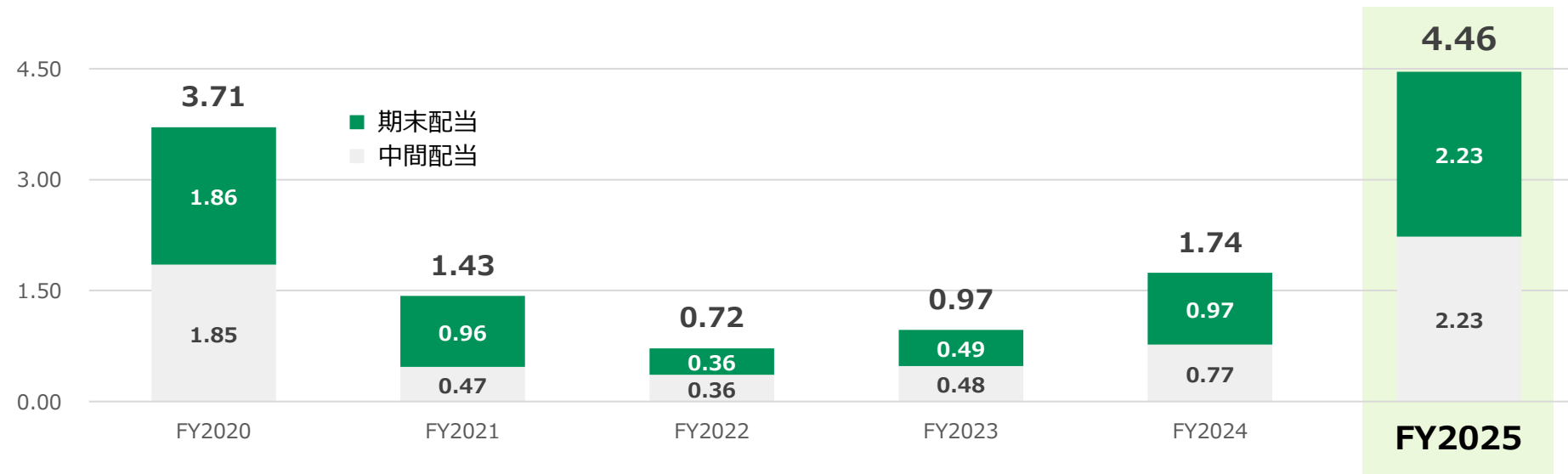
V. 株主還元について

株主様への利益還元

配当方針

当社は、配当金を株主の皆様への還元の中核をなすものと考え、
「インフォマートの個別業績に基づく基本配当性向50%」を配当の基本方針としております。
今後、財務体質の強化を図りつつ、業績向上を通じて株主様への一層の還元拡大に努めてまいります。

	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025 (計画)
中間配当	1.85	0.47	0.36	0.48	0.77	2.23
期末配当	1.86	0.96	0.36	0.49	0.97	2.23
合計	3.71	1.43	0.72	0.97	1.74	4.46



※ 2025年12月期中間配当金は、2025年7月31日開催の取締役会で決議されました（効力発生日 2025年9月3日）。

Appendix

会社概要



2025年9月末現在

COMPANY PROFILE

- 会社名 株式会社インフォマート（Infomart Corporation）
- 設立年月日 1998（平成10）年2月13日
- 事業内容 BtoBプラットフォーム（企業間電子商取引サービス）の運営
- 本社所在地 東京都港区海岸1-2-3 汐留芝離宮ビルディング13階
- 代表者 代表取締役社長 中島 健
代表取締役副社長 木村 慎
- 資本金 32億1,251万円
- 従業員数 809名（連結）、782名（単体）
- 子会社 株式会社タノム（本社所在地 東京都渋谷区）
株式会社Restartz（本社所在地 東京都港区）
- URL <https://corp.infomart.co.jp/>
- 上場証券取引所 東京証券取引所プライム市場
- 証券コード 2492

- 営業所
 - 札幌営業所 北海道札幌市中央区大通西5-8 昭和ビル 東館6階
 - 名古屋営業所 愛知県名古屋市中区錦3-1-30 錦マルエムビル5階
 - 西日本営業所 大阪府大阪市淀川区西中島6-9-27 新大阪メイコービル2階
 - 福岡営業所 福岡県福岡市博多区博多駅前4-14-1 博多深見パークビルディング6階
 - 沖縄営業所 沖縄県那覇市松尾1-19-27 ミルコ那覇ビル7階
 - 三軒茶屋ラボ 東京都世田谷区若林1-18-10 京阪世田谷ビル3階

会社紹介

TAGLINE

しごと、スマート。 インフォマート

BRAND STATEMENT

もっと仕事をスマートに進めたい。
新しいアイデアを考えたい。誰かに喜んでもらいたい。
そんな思いに応えるのが、インフォマート。

たとえば、飲食店で毎日発生する発注の伝票処理。
たとえば、異なるフォーマットでバラバラと届く請求書の管理。
そうしたわずらわしい業務を自動化し、効率的に。
インフォマートは、企業と企業をつなぎ、
デジタルの力であらゆる業務の仕組みを変えていきます。

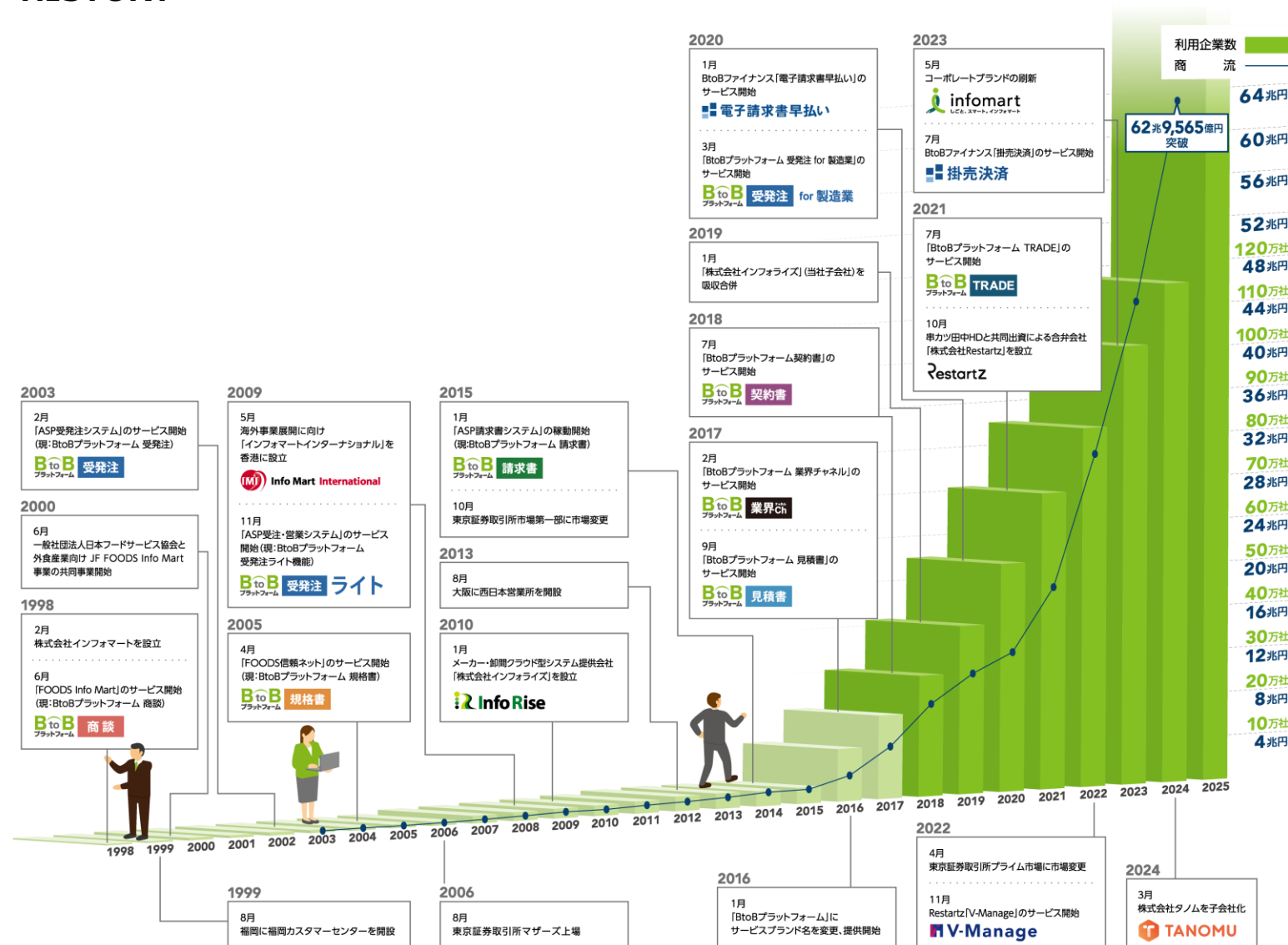
ひとがルーティン作業から解放されれば、
すべての企業活動は、もっとスムーズになる。
時間にゆとりが生まれ、あたらしい価値をつくりだせる。

その先に描くのは、すべてのひとが自由に、いきいきと働ける社会。
スマートに働くひとや企業が世の中に増えたら、
ひとの暮らしはもっと豊かに、社会はもっと幸せなものに変わる。

だからインフォマートは、あらゆる仕事をスマートに。
これからも、たくさんの幸せが生まれる社会を支えています。



HISTORY



BtoBプラットフォームの概要、特徴

BtoBプラットフォーム

BtoBプラットフォームのアカウントを取得すると利用しているサービスごとにプラットフォームのなかで取引先企業とつながり、取引書類の作成や送信、受取などの業務をプラットフォーム内で完結させることができます。

プラットフォームで取引する書類はすべてデジタルデータです。そのためネット環境さえあれば、どこでもアクセスが可能。すべてのデータはプラットフォームに自動的に保存され、閲覧や検索も簡単に、紙の書類とはちがい紛失や漏洩のリスクも軽減されます。BtoBプラットフォームはインボイス制度や電子帳簿保存法にも対応しているので、安心して証憑書類を保管・管理していくことができます。

BtoBプラットフォームの特徴

標準化

顧客ごとにカスタマイズするのではなく、標準化されたシステムを多くの企業様に利用していただくことで、文書標準化による作成・管理の効率化。

デジタル化

文書の作成・管理は、すべてクラウドシステムで。デジタル化された書類から得られるデータを利用して経営判断の高度化・スピード向上を図れます。

低料金

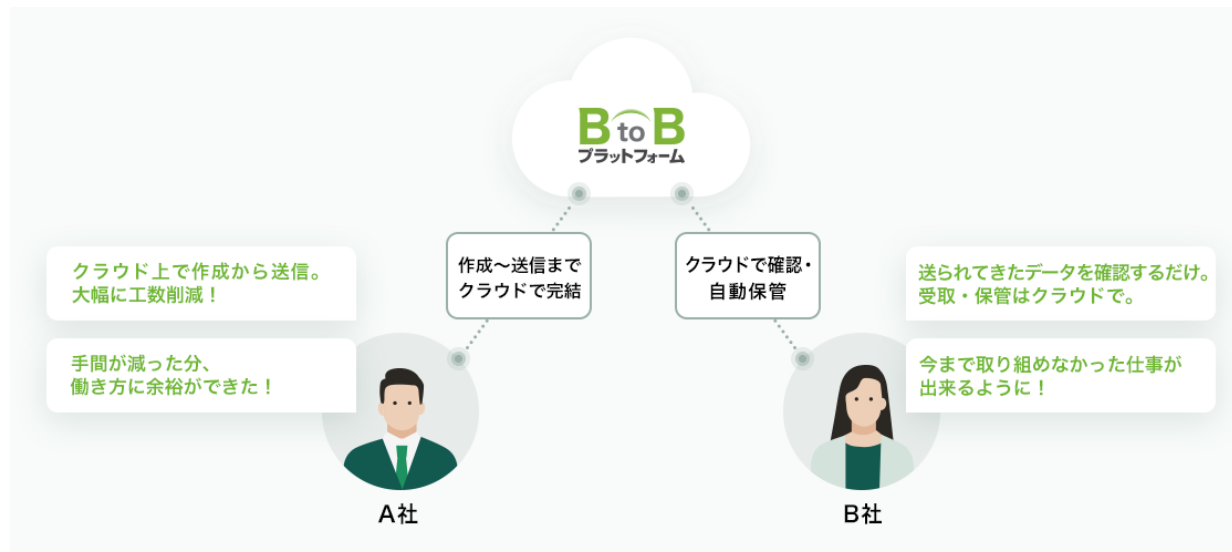
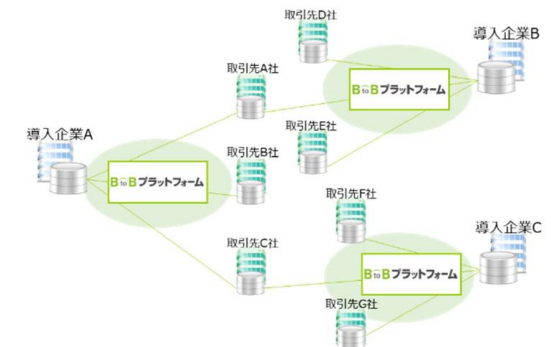
BtoBプラットフォームを使った取引が増えても、利用料には上限があるので安心。紙伝票や保管場所も減らせるので、高い費用対効果を期待できます。

ビジネスモデル

ストック型ビジネス

- ① 高い使用継続率
＝お客様の自然な選択
- ② 安定収益
＝売上高の90%以上が月額システム利用料（利用企業数が一定水準を超えると利益率が上昇）

ネットワーク基盤



主要なBtoBプラットフォーム

BtoB-PF FOOD事業

BtoB プラットフォーム 受発注

飲食店（主に外食チェーン）向けデジタル発注プラットフォーム。飲食店と卸・メーカー間の受発注を電子化、従来の電話・FAXによる受発注から大幅な効率化を実現。

BtoB プラットフォーム 規格書

食の安心・安全管理を実現する商品規格書プラットフォーム。アレルギーや原産地情報など、バラバラの様式で管理されていた商品規格書を統一フォーマットで電子管理。

BtoB プラットフォーム 受発注 ライト TANOMU

卸売企業向け、受注デジタル化・受注一括管理ツール。小・中規模の個人店からの受注管理や販促案内もデジタル化が可能（TANOMUはLINEを使った発注が可能）

V-Manage

店舗オペレーション管理ツール。店舗への指示、タスクのチェック、新人教育、衛生管理などをアプリでマニュアル化・管理・まとめて報告。

BtoB-PF ES事業

BtoB プラットフォーム 請求書

請求書をデジタル化（電子化）する電子請求書プラットフォーム。時間・コスト・手間のかかる経理業務を大幅に改善して、経理・経営のDXを実現します。電子帳簿保存法・インボイス制度に対応。

BtoB プラットフォーム 契約書

安心・安全な契約管理を実現する電子契約書プラットフォーム。社内ワークフロー機能も搭載し、企業間の商行為のさらなる利便性の向上とペーパーレスを実現。

BtoB プラットフォーム TRADE

取引先との見積書・発注書・納品書・検収書をデジタル化するプラットフォーム。「BtoB-PF 請求書」「BtoB-PF 契約書」との連携を通じて、企業間で行われる一連の商取引をシームレスに完結。

BtoB プラットフォーム 商談

国内最大級の業務用食品食材の商談プラットフォーム。取引先の発掘～商談・見積～受発注～決済までをワンストップで提供。

サービス別 料金体系

料金 (金額：税別)

2025年9月末現在

BtoB-PF FOOD事業	 	<u>＜買い手企業＞</u> 《月額システム使用料》 ・本部： 18,000円 ・店舗： 1,500円 《セットアップ費用》 300,000円～		<u>＜売り手企業＞</u> 《月額システム使用料》※月次受領金額に応じて課金 ・100,000～2,500,000円 ： 月次受領金額の1.10% ・2,500,001～10,000,000円 ： 月次受領金額の0.40% ・10,000,001～50,000,000円： 月次受領金額の0.20% ・50,000,001～75,000,000円： 月次受領金額の0.05% ・75,000,001円以上 ： 150,000円 ・ID追加： 800円		
	 	<u>＜買い手機能＞</u> 《月額システム使用料》50,000円 《セットアップ費用》 300,000円～	<u>＜卸機能＞</u> 《月額システム使用料》35,000円 《セットアップ費用》 300,000円～		<u>＜メーカー機能＞</u> 《月額システム使用料》 ・定額制： 35,000円 or 50,000円 ・従量制： 3,000円 ～ 20,000円	
	  	<u>＜売り手企業＞</u> 《月額システム使用料》※月間受注金額に応じて課金 ・1円～1,000万円 ： 月間受注金額の1.2% ・1,000万円超～1億円 ： 月間受注金額の0.5% ・1億円超～ ： 月間受注金額の0.1% 《セットアップ費用》 別途見積				
		<u>＜売り手企業＞</u> 《月額システム使用料》 30,000円 ～ 500,000円 《セットアップ費用》 100,000円 ～ 300,000円 (受注・受信可能数に応じる)				
		<u>＜買い手企業＞</u> 《月額システム使用料》 ・店舗： 5,000円 《セットアップ費用》 300,000円～				

2025年9月末現在

料金 (金額: 税別)

BtoB-PF ES事業		《月額システム使用料》〔基本料金〕 35,000円 +〔従量料金①〕 月間請求書 <u>受取通数</u> ・50通までは基本料金に含む ・51～1,000通…… 100円／ 1 通 ・1,001通～…… 90円／ 1 通 +〔従量料金②〕 月間請求書 <u>発行通数</u> ・100通までは基本料金に含む ・101～1,000通…… 60円／ 1 通 ・1,001通～…… 50円／ 1 通	
		《セットアップ費用》 100,000円～	
		<u>＜シルバープラン＞</u> 《月額システム使用料》〔基本料金〕 10,000円 +〔従量料金〕 月間契約発行・受領数 ・1契約～…… 50円／ 1 通 ・自社保管 3通まで／月 《セットアップ費用》 要望に応じ別途見積	<u>＜ゴールドプラン＞</u> 《月額システム使用料》〔基本料金〕 30,000円 +〔従量料金〕 月間契約発行・受領数 ・100契約までは基本料金に含む ・101契約～…… 50円／ 1 通 ・自社保管 無制限 《セットアップ費用》 要望に応じ別途見積
	<u>＜買い手企業＞</u> 《月額システム使用料》 〔固定料金〕 5,000円		<u>＜売り手企業＞</u> 《月額システム使用料》 〔固定料金〕 25,000円

当資料に記載された内容は、2025年10月31日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。投資に際しての最終的な判断は、お客様自身がなされるよう、お願いいたします。本資料は株式会社インフォマートによって作成されたものです。